

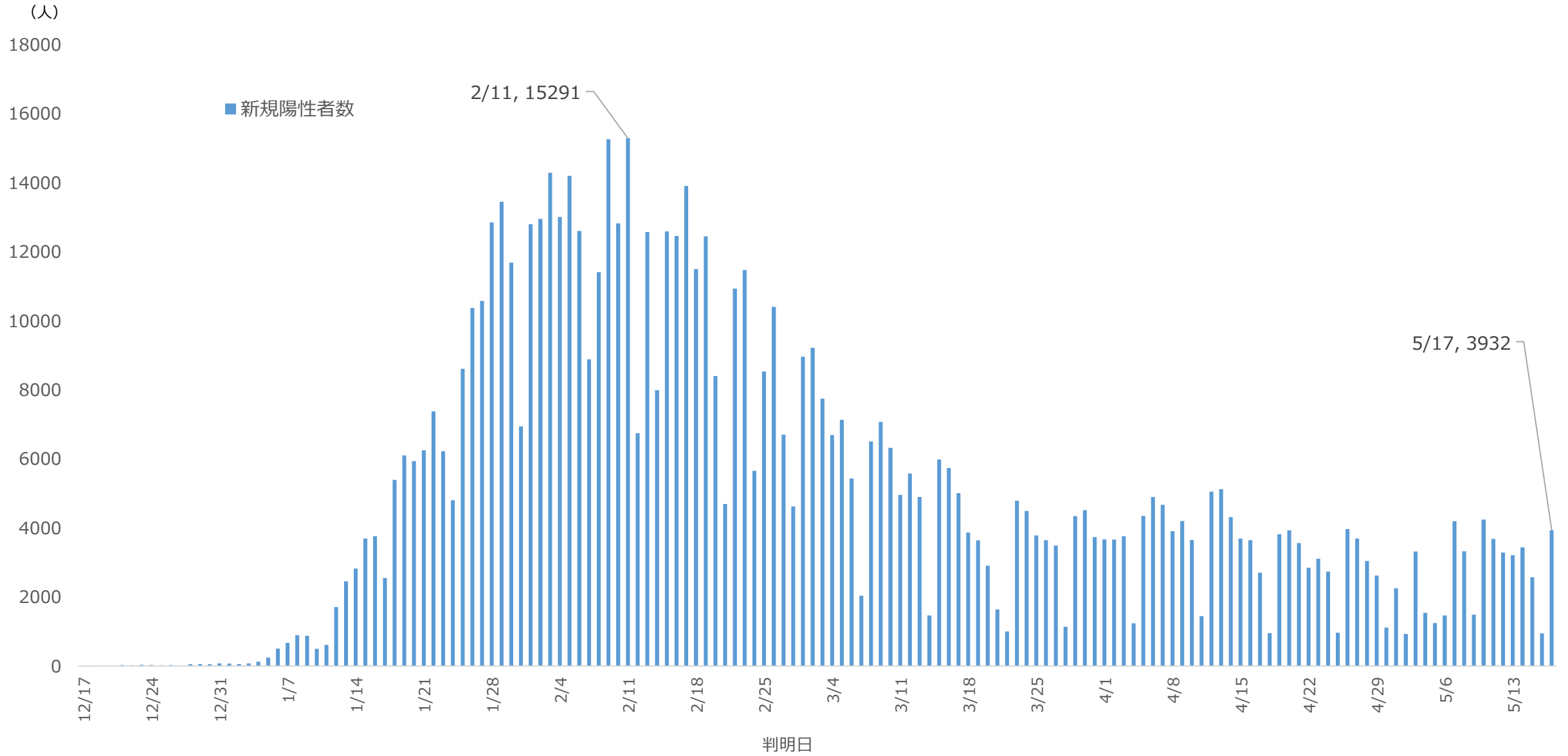
現在の感染・療養状況等について

大阪府健康医療部

1	陽性者数等の推移	P3~11
2	クラスターの発生状況	P12~14
3	入院・療養状況	P15~25
4	重症・死亡例のまとめ	P26~30
5	感染状況を踏まえた対応	P31~44

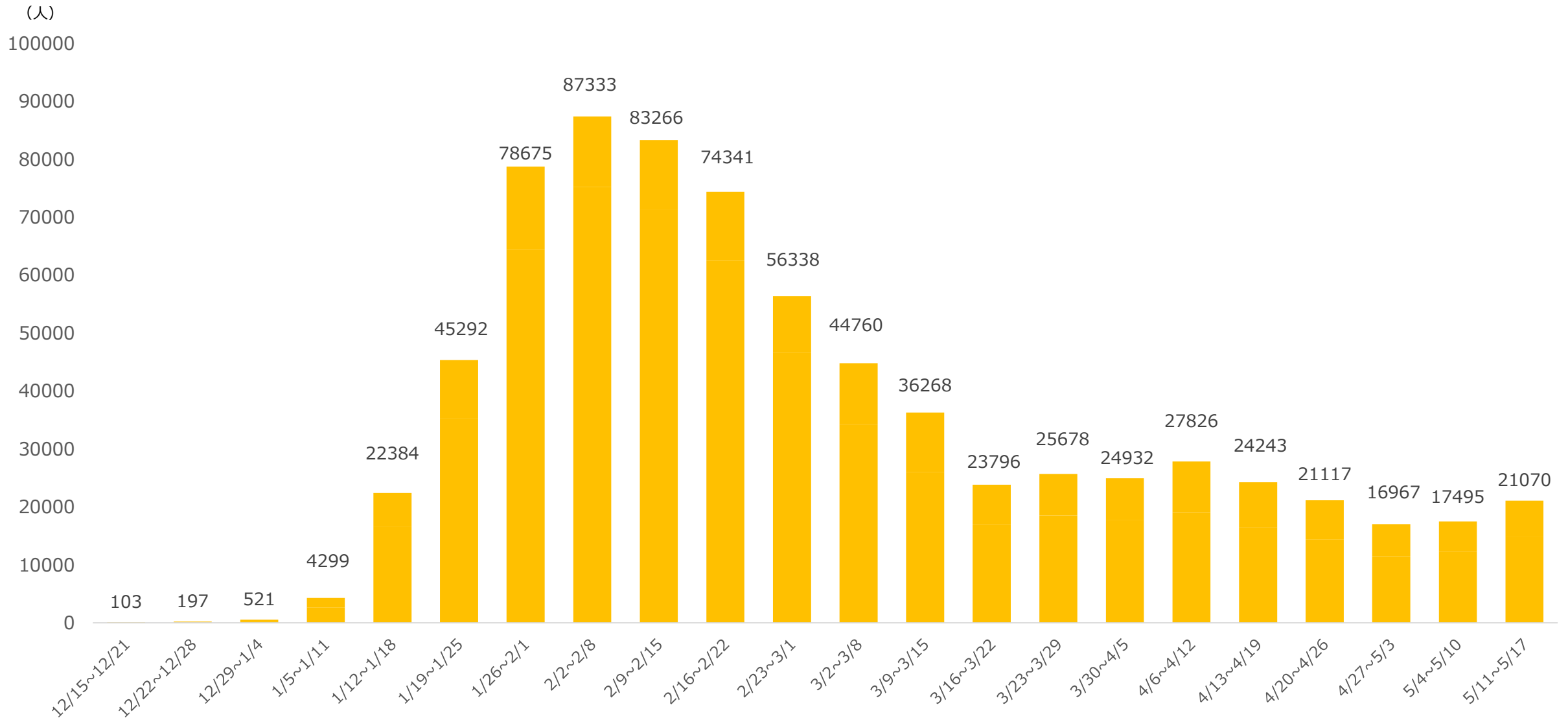
1 陽性者数等の推移

陽性者数の推移 (5月17日時点)



7日間毎の新規陽性者数(5月17日時点)

◆ 大型連休後の直近1週間の新規陽性者数は増加したが、5月14日以降、前週同曜日の新規陽性者数を下回った状態が継続。(直近1週間の1日あたり新規陽性者数 3,010人)



新規陽性者数及び前週同曜日増加比の推移（5月17日時点）

上段：新規陽性者数
下段：前週同曜日増加比

◆ 大型連休後の1週間は連続して前週同曜日を上回ったが、14日以降、前週同曜日を下回っている。

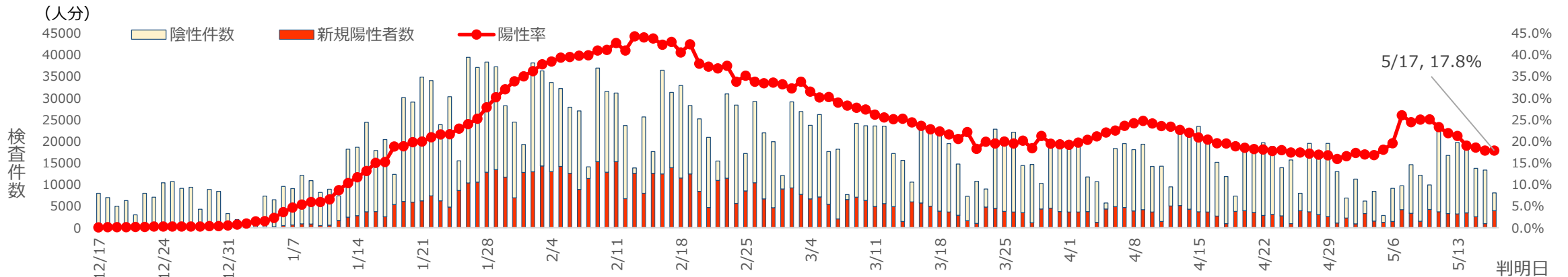
4月	3	4	5	6	7	8	9	週合計
	3,758 (1.08)	1,241 (1.09)	4,347 (1.00)	4,896 (1.08)	4,672 (1.25)	3,907 (1.06)	4,200 (1.15)	27,021 (1.10)
	10	11	12	13	14	15	16	週合計
	3,652 (0.97)	1,449 (1.17)	5,050 (1.16)	5,121 (1.05)	4,311 (0.92)	3,692 (0.94)	3,643 (0.87)	26,918 (1.00)
	17	18	19	20	21	22	23	週合計
	2,706 (0.74)	951 (0.66)	3,819 (0.76)	3,934 (0.77)	3,565 (0.83)	2,845 (0.77)	3,112 (0.85)	20,932 (0.78)
	24	25	26	27	28	29	30	週合計
2,732 (1.01)	963 (1.01)	3,966 (1.04)	3,695 (0.94)	3,045 (0.85)	2,619 (0.92)	1,112 (0.36)	18,132 (0.87)	
5月	5月1日	2	3	4	5	6	7	週合計
	2,252 (0.82)	926 (0.96)	3,318 (0.84)	1,545 (0.42)	1,243 (0.41)	1,465 (0.56)	4,192 (3.77)	14,941 (0.82)
	8	9	10	11	12	13	14	週合計
	3,324 (1.48)	1,486 (1.60)	4,240 (1.28)	3,679 (2.38)	3,290 (2.65)	3,210 (2.19)	3,439 (0.82)	22,668 (1.52)
	15	16	17	18	19	20	21	週合計
	2,576 (0.77)	944 (0.64)	3,932 (0.93)					

検査件数と陽性率（5月17日時点）

- ◆ 陽性率はやや減少傾向にあるが、5月17日時点で17.8%と依然、高水準。
- ◆ 5月2日～5月8日の1週間における自費検査及び無料検査の陽性判明率は、前週より増加。

【行政検査】

※算出方法：「1週間の陽性者数（疑似症を除く）／1週間の検体採取をした人数」



【自費検査】

自費検査（府内に営業所がある自費検査のみを提供する民間会社等）及び新型コロナウイルス検査実施事業者（薬局等）において有料で実施した検査件数

期間	自費検査件数	(参考値) 陽性判明数 ※1	陽性判明率
3/21～3/27	4,393 件	108 名	2.5 %
3/28～4/3	3,203 件	75 名	2.3 %
4/4～4/10	3,240 件	174 名	5.4 %
4/11～4/17	3,671 件	179 名	4.9 %
4/18～4/24	3,366 件	99 名	2.9 %
4/25～5/1	4,021 件	100 名	2.5 %
5/2～5/8	3,779 件	123 名	3.3 %

【無料検査】

新型コロナウイルス検査実施事業者（薬局等）で実施された検査件数（ワクチン・検査パッケージ等定着促進事業と感染拡大傾向時の一般検査事業の合計）

期間	無料検査件数	(参考値) 陽性判明数 ※1	陽性判明率
3/21～3/27	45,668 件	1,933 名	4.2 %
3/28～4/3	53,250 件	2,150 名	4.0 %
4/4～4/10	50,097 件	2,329 名	4.6 %
4/11～4/17	52,327 件	2,173 名	4.2 %
4/18～4/24	53,108 件	1,647 名	3.1 %
4/25～5/1	55,362 件	1,104 名	2.0 %
5/2～5/8	44,885 件	1,490 名	3.3 %

※1 陽性判明数の中には、府外に発生届が提出されている人や確定診断されていない人も含まれるため、陽性判明数は参考値としています。（陽性者数は、国のシステム（HER-SYS）上、行政検査、自費検査、無料検査のいずれで陽性となったかは区別ができません。）

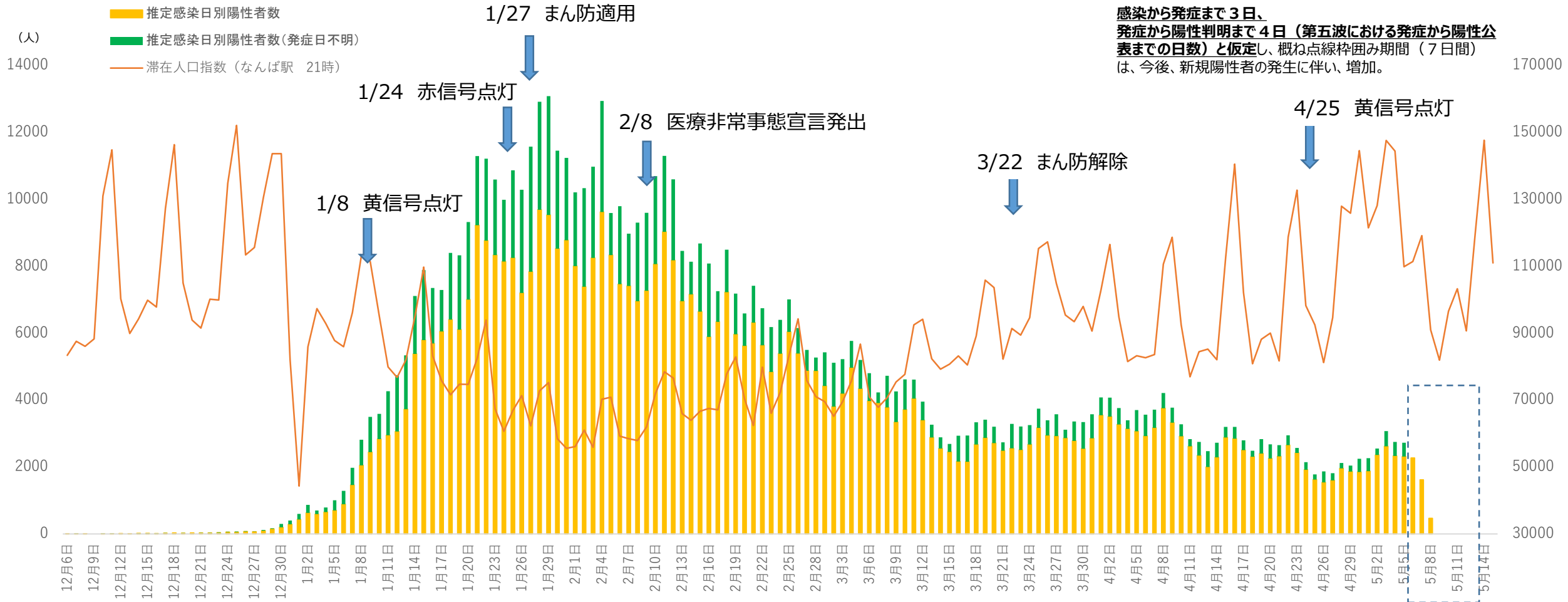
※2 上記のほか、高齢者施設等（入所・居住系）の従事者に対する抗原キット定期検査実施。

※3 当面の間、無料検査事業は継続。

推定感染日別陽性者数と人流（夜間）（5月12日時点）

◆ 大型連休後、人流はやや減少したものの、14日は再び年末の水準まで拡大。
推定感染日別陽性者数は、大型連休中にやや増加。

（令和3年12月17日以降令和4年5月12日までの判明日分）（N=675,691名（調査中、無症状を除く））



感染から発症まで3日、
発症から陽性判明まで4日（第五波における発症から陽性公表までの日数）と仮定し、概ね点線枠囲み期間（7日間）は、今後、新規陽性者の発生に伴い、増加。

※推定感染日：発症日から3日前と仮定 オミクロン株感染症の潜伏期間解析結果に基づく（R4.1.13国立感染症研究所「SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統（オミクロン株）について（第6報）」より）

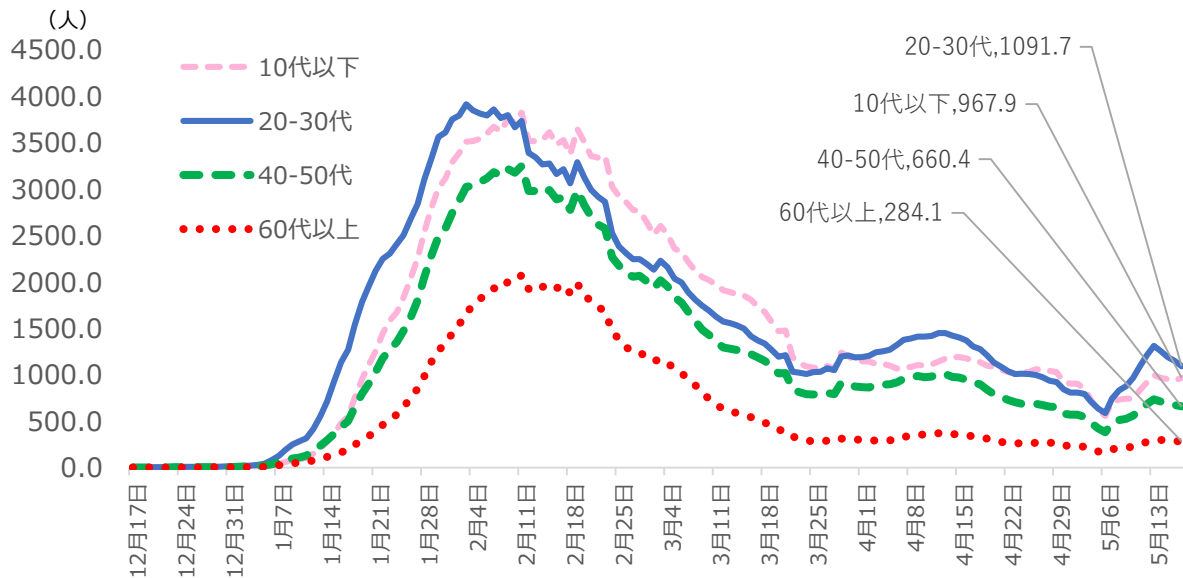
※有症状で発症日が確認できなかった事例について、陽性判明日から7日遡って算出

※人流は、駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント【出典：株式会社Agoop】

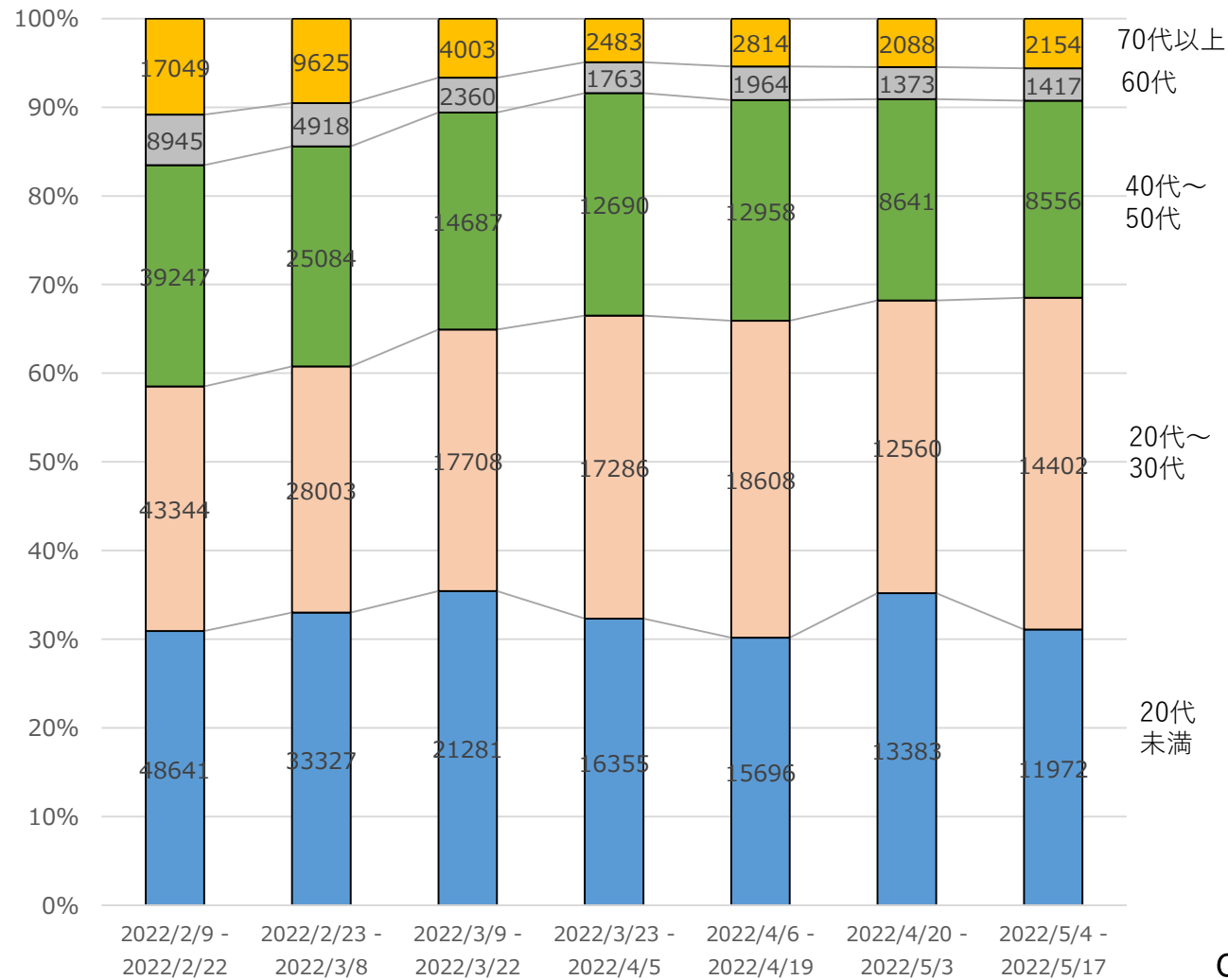
年代別新規陽性者数の推移 (5月17日時点)

◆ 大型連休後に20・30代をはじめ各年代別新規陽性者数(7日間移動平均)で増加が見られたが、直近は、各年代とも1前後で推移。

【年代別新規陽性者数(7日間移動平均)の推移】



【陽性者の年齢区分(割合、2週間単位)】



【年代別新規陽性者数(7日間移動平均)前日増加比】

	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
10代以下	0.86	0.89	1.27	1.03	1.01	1.00	1.12	1.10	1.09	0.97	0.98	0.99	1.03
20~30代	0.90	0.93	1.27	1.12	1.06	1.10	1.13	1.11	1.08	0.96	0.95	0.96	0.95
40~50代	0.88	0.90	1.27	1.06	1.03	1.07	1.11	1.10	1.08	0.97	0.97	0.98	0.98
60代以上	0.88	0.94	1.19	1.06	1.04	1.04	1.11	1.11	1.07	1.00	0.98	0.97	1.00

前日増加比が1を超過した日

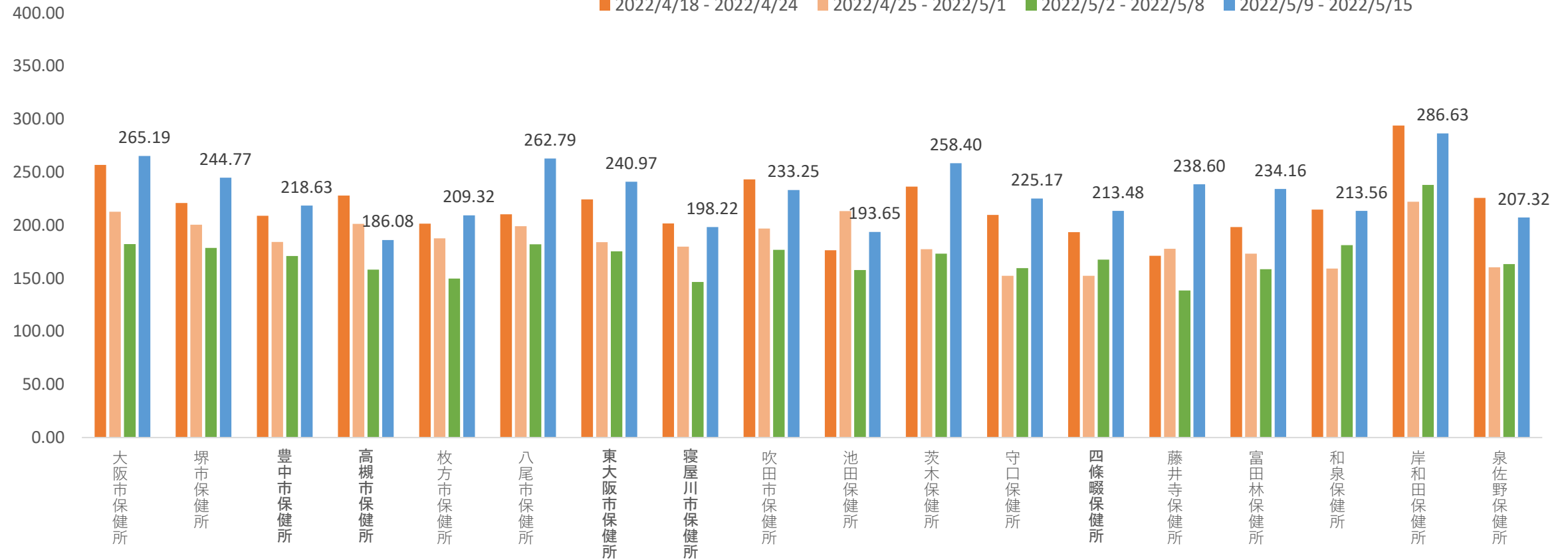
第六波の保健所管内別陽性者の状況（5月15日時点）

◆ 直近1週間は、全ての保健所管内で陽性者数が増加。

(人)

人口10万人あたり新規陽性者数（保健所管内別）

■ 2022/4/18 - 2022/4/24 ■ 2022/4/25 - 2022/5/1 ■ 2022/5/2 - 2022/5/8 ■ 2022/5/9 - 2022/5/15



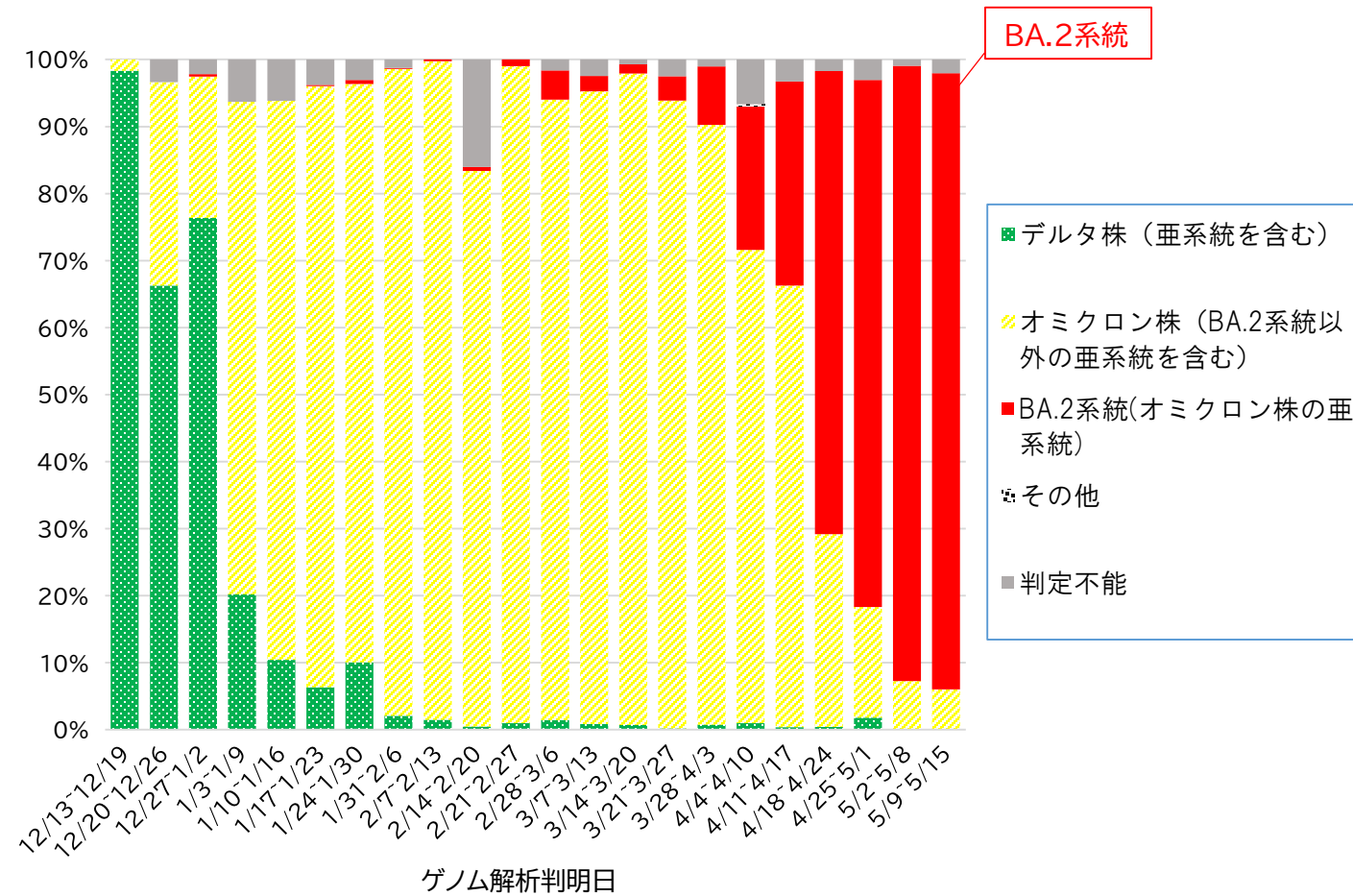
【池田】池田市・箕面市・豊能町・能勢町 【茨木】茨木市・摂津市・島本町 【守口】守口市・門真市 【四條畷】大東市・四條畷市・交野市
 【藤井寺】松原市・羽曳野市・柏原市・藤井寺市 【富田林】富田林市・河内長野市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村
 【和泉】泉大津市・和泉市・高石市・忠岡町 【岸和田】岸和田市・貝塚市 【泉佐野】泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町

※居住地による（居住地为非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く）

ゲノム解析結果及びオミクロン株 (BA.2系統) の検出状況 R4.5.9~R4.5.15

◆ 直近1週間の変異株スクリーニング検査ではBA.2系統疑いの検出が約97%で、ほぼ置き換わったものと考えられる。

○ゲノム解析により判明した変異株の検出割合
(対象期間に検出されたpango lineage(新型コロナウイルスの国際的な系統分類命名法)別に集計)



	4/25~5/1	5/2~5/8	5/9~5/15
新規判明	129	190	536
累計	783	973	1,509

○BA.2系統に対応した変異株PCR検査実施状況

	4/25~5/1	5/2~5/8	5/9~5/15
BA.2系統疑い検出数	411	325	475
BA.2系統に対応した変異株PCR検査数	448	338	490
BA.2系統疑いの検出率	約91.7%	約96.2%	約96.9%

※判定不能を除く

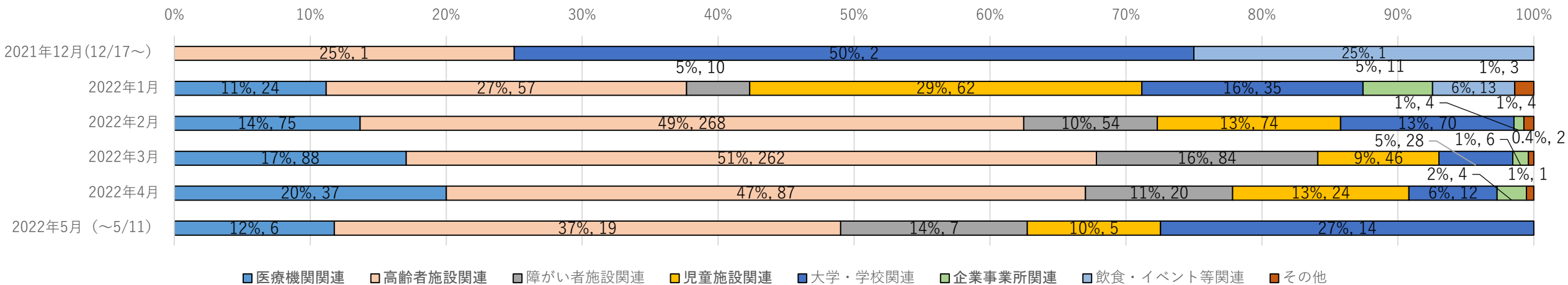
※ゲノム解析はウイルス量の多い検体を対象にしており、全ての陽性検体を対象にはしていません。
また、感染拡大状況下による検査数増加に伴い、大量に検査可能な検査機関ほど、ゲノム解析に時間がかかる傾向にあります。
※検査機関からの結果報告日毎に集計しており、当該週における発症日や検体採取日毎の発生状況を表しているわけではありません。

2 クラスターの発生状況

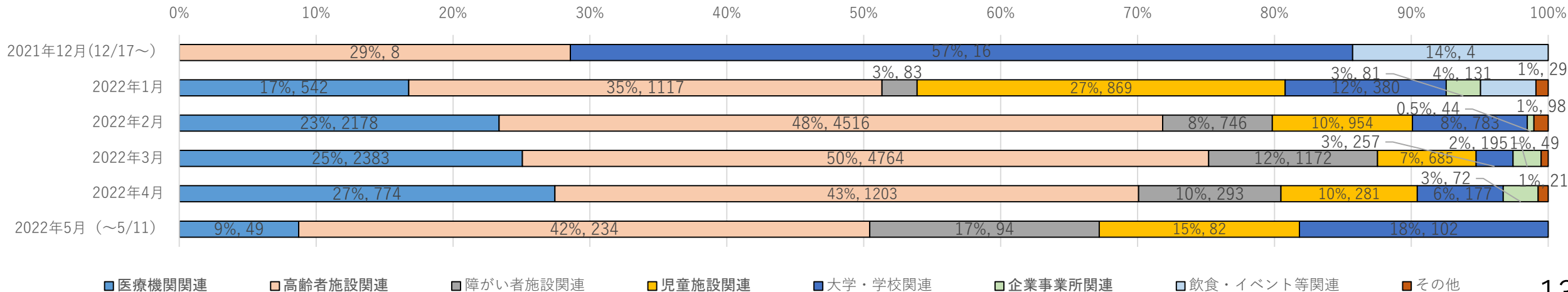
第六波のクラスター状況【割合】

◆ 5月（11日間）は、医療機関関連や高齢者施設関連のクラスター発生割合（施設数）は減少し、大学・学校関連が増加。依然、施設数及び陽性者数ベースで高齢者施設関連クラスター発生割合が4割前後を占める。

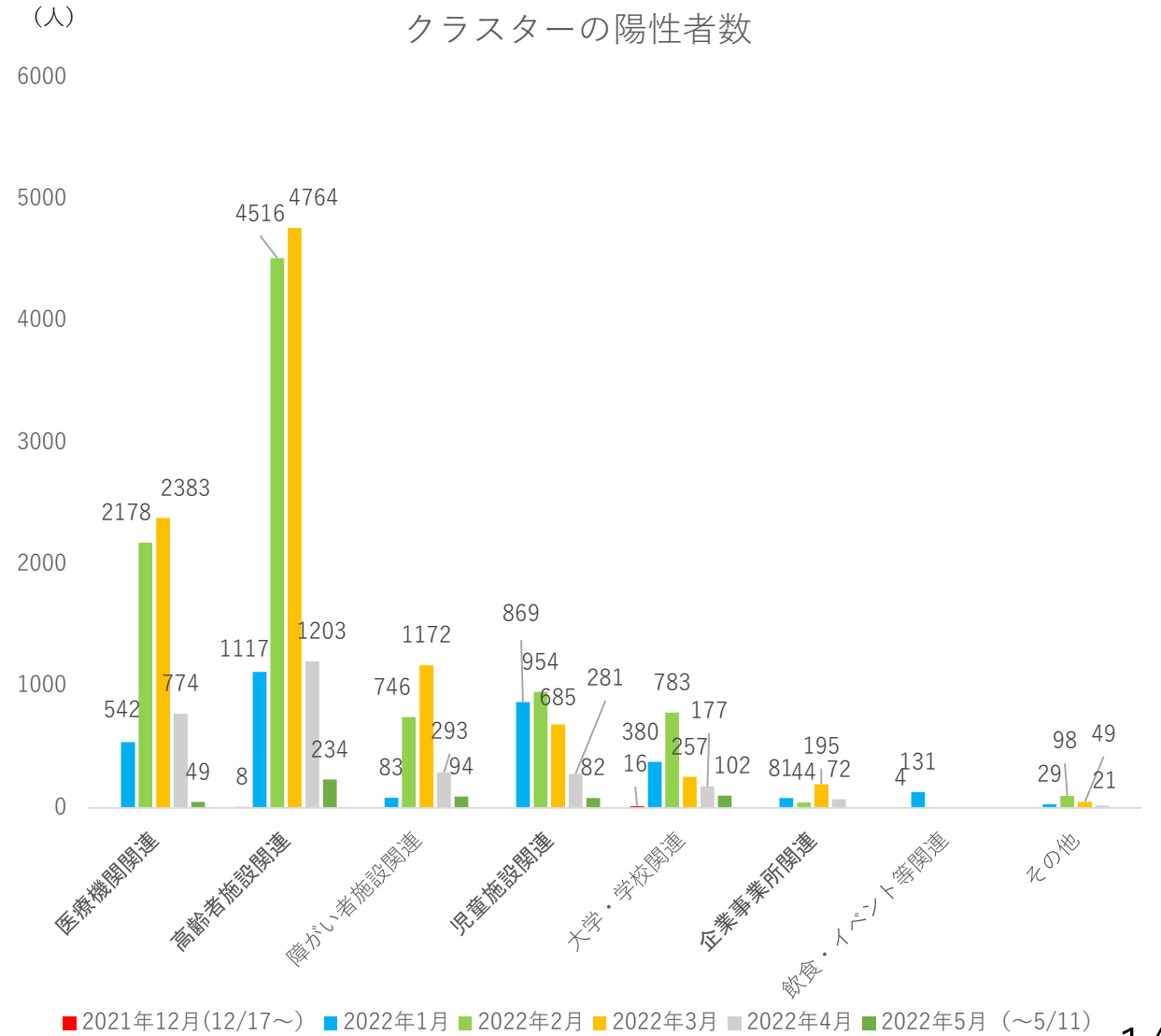
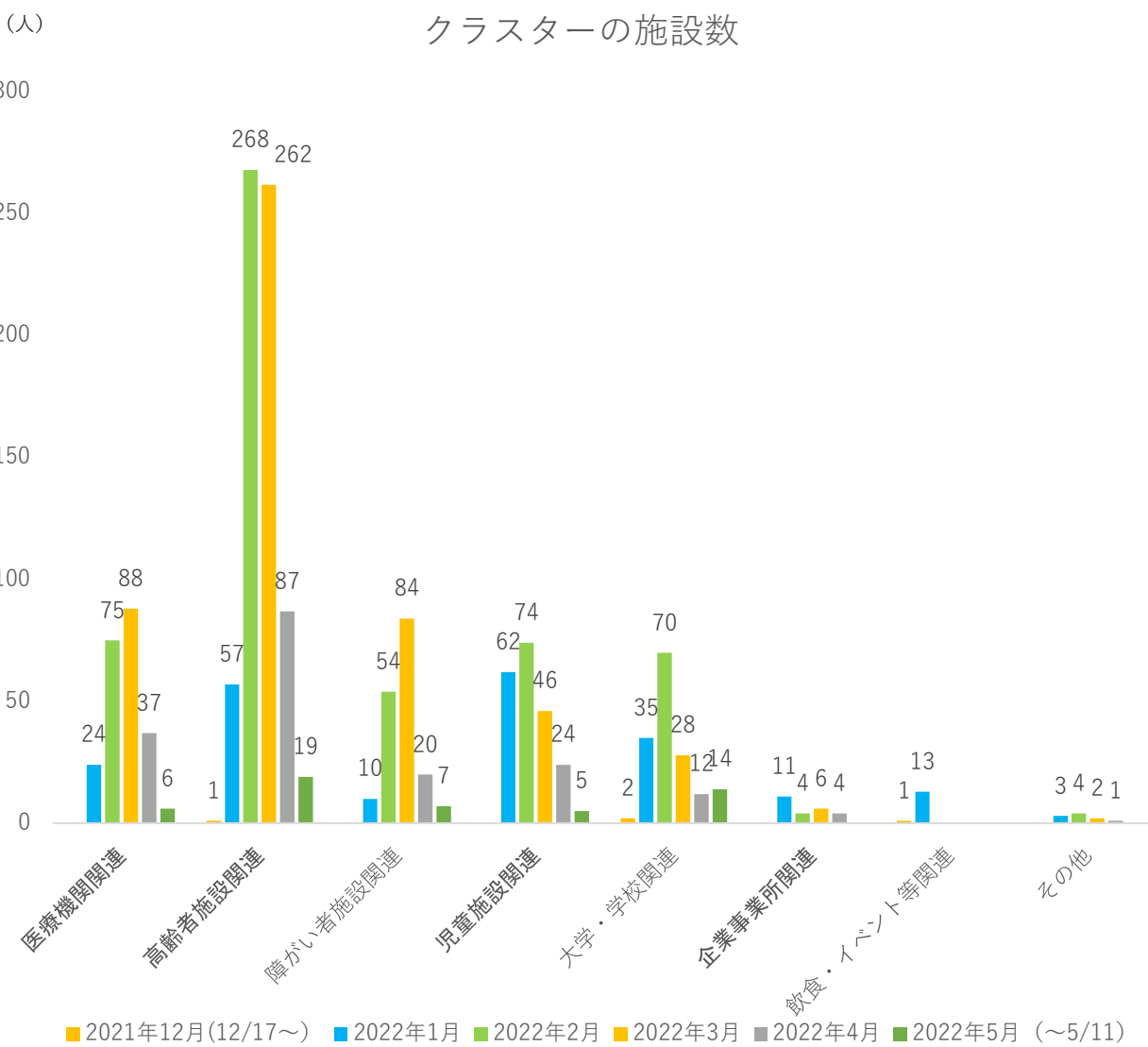
施設数（割合）



陽性者数（割合）



第六波のクラスター状況【実数】



3 入院・療養状況

新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況【重症・軽症中等症】

◆ 病床使用率は、直近は20%弱で推移し、5月17日時点で19.6%。

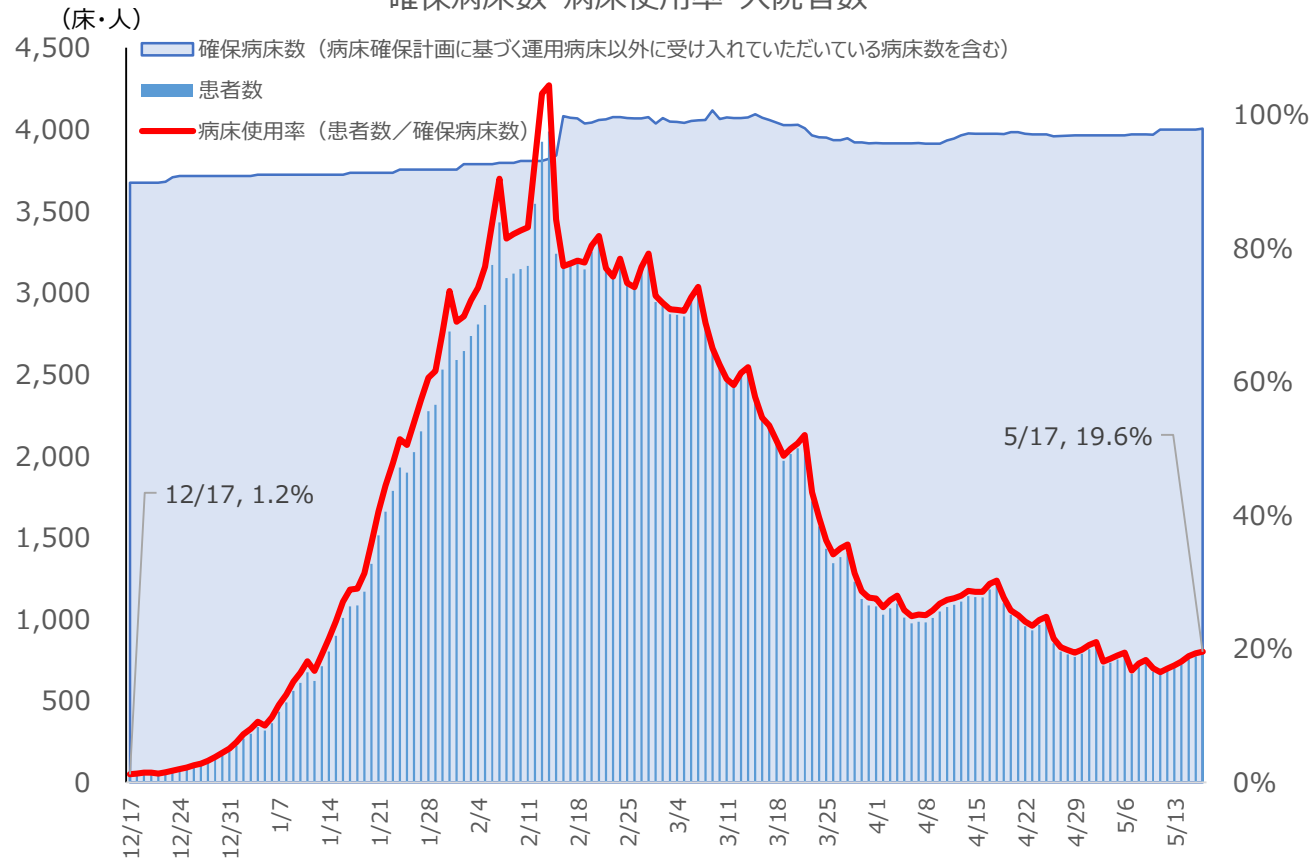
● 確保病床と使用率

5月17日現在 **病床使用率19.6%**

病床数 4,005床 入院患者数 783人

※病床数には、病床確保計画に基づく確保病床以外の受入病床数8床を含める
これら病床を病床数に含まない場合、19.6%

確保病床数・病床使用率・入院者数



新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況【重症】

◆ コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数を含めた重症病床使用率は、5月17日時点で6.1%と低水準で推移。

● 確保病床と使用率

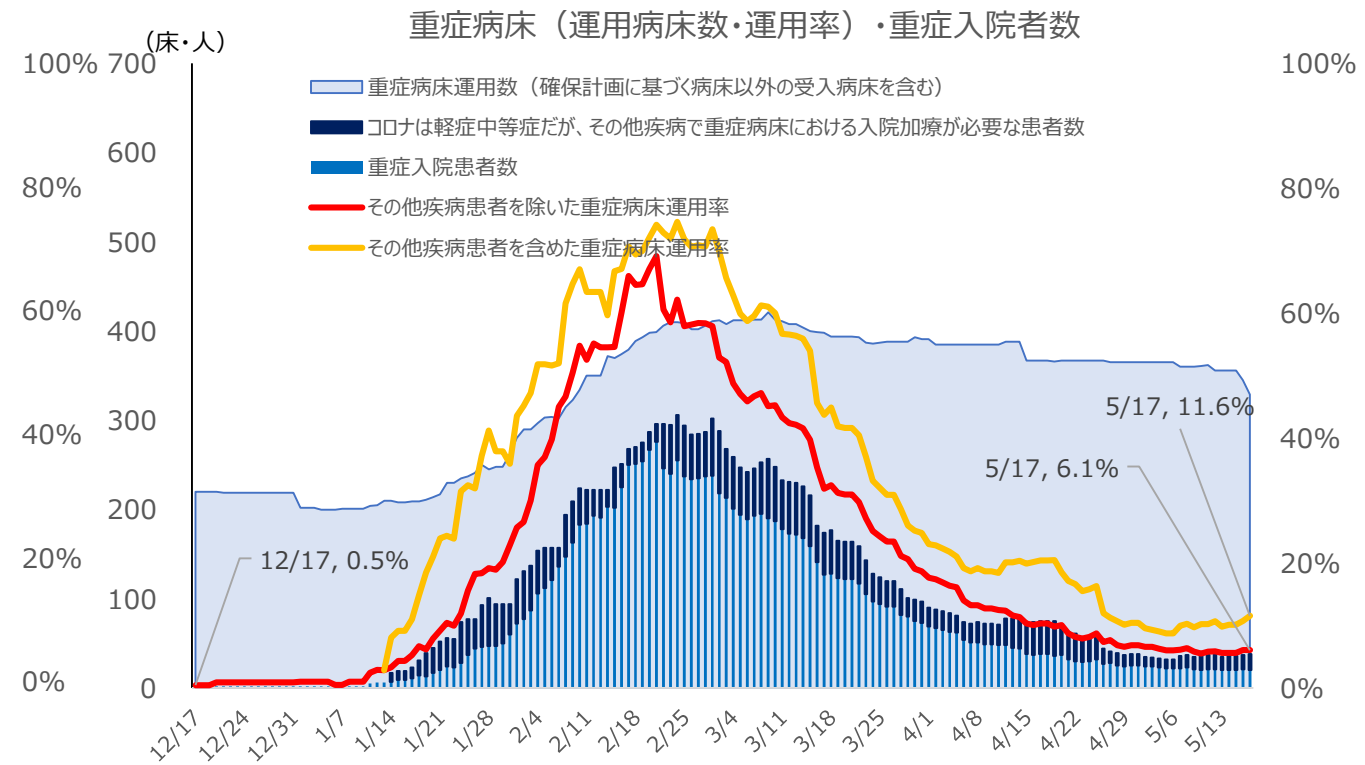
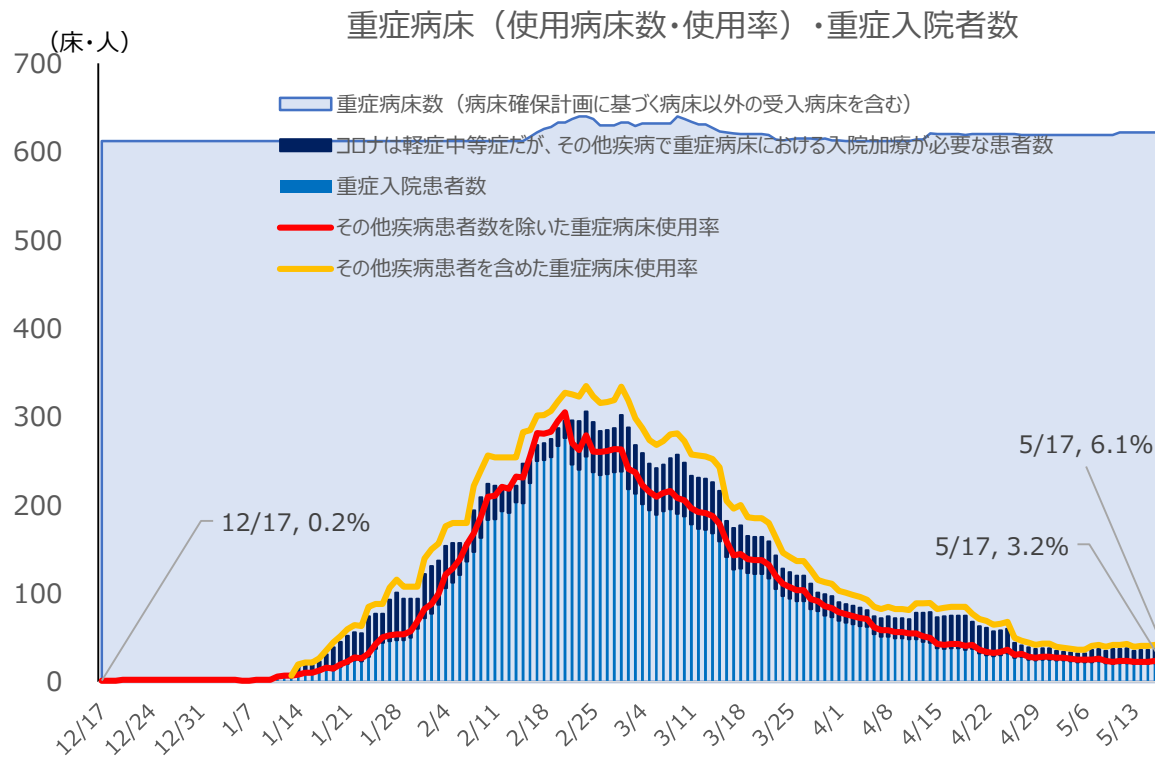
5月17日現在 **病床使用3.2% (6.1%)**
病床数 622床 入院患者数 20人 (38人)

※ () の%、人数は、コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数18人を含めた場合の率と患者数

● 運用病床と運用率

5月17日現在 **病床運用率6.1% (11.6%)**
運用病床数 329床 入院患者数 20人 (38人)

※左記に同じ



※5月13日、受入医療機関に対し、フェーズ2への引下げを通知

新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況【軽症中等症】

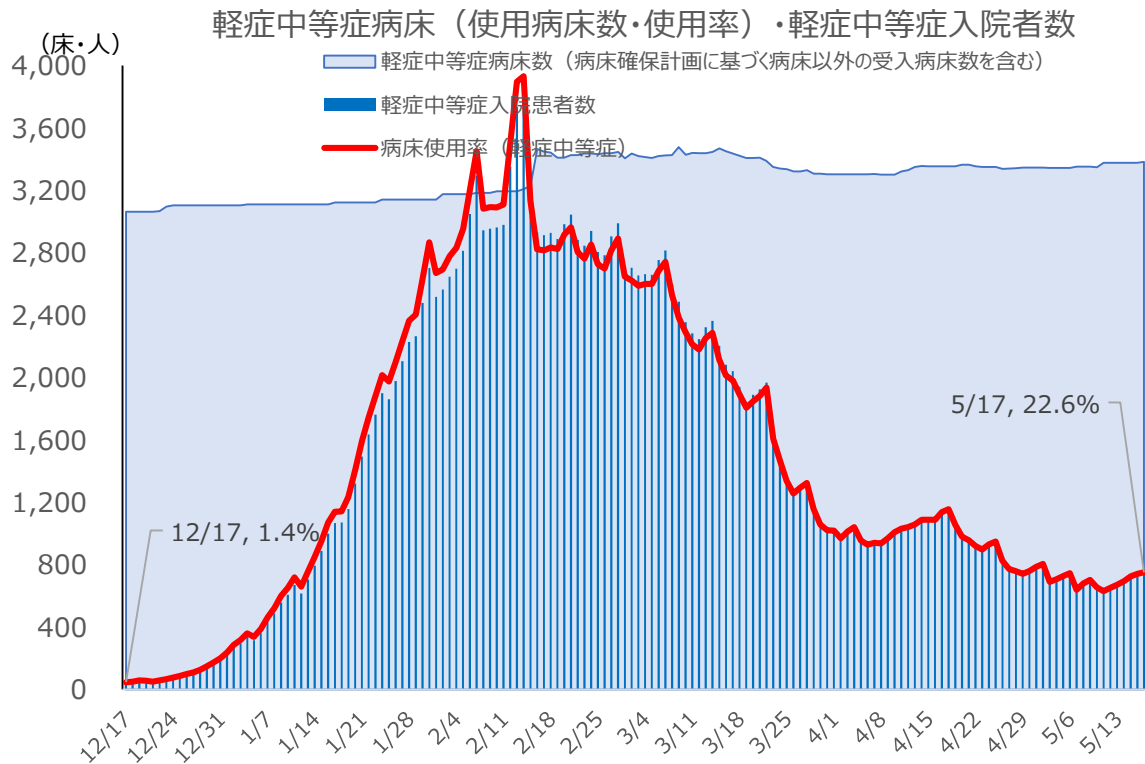
◆ 軽症中等症病床使用率は、直近は20%強で推移し、5月17日時点で22.6%。

● 確保病床と使用率

5月17日現在 **病床使用率22.6%**

病床数 3,383床 入院患者数763人

※病床数には、病床確保計画に基づく確保病床以外の受入病床数8床を含める
 ※患者数には、コロナは軽症中等症だが、その他疾病で重症病床における入院加療が必要な患者数18人を含める。含めない場合は使用率22.0%、運用率24.4%。

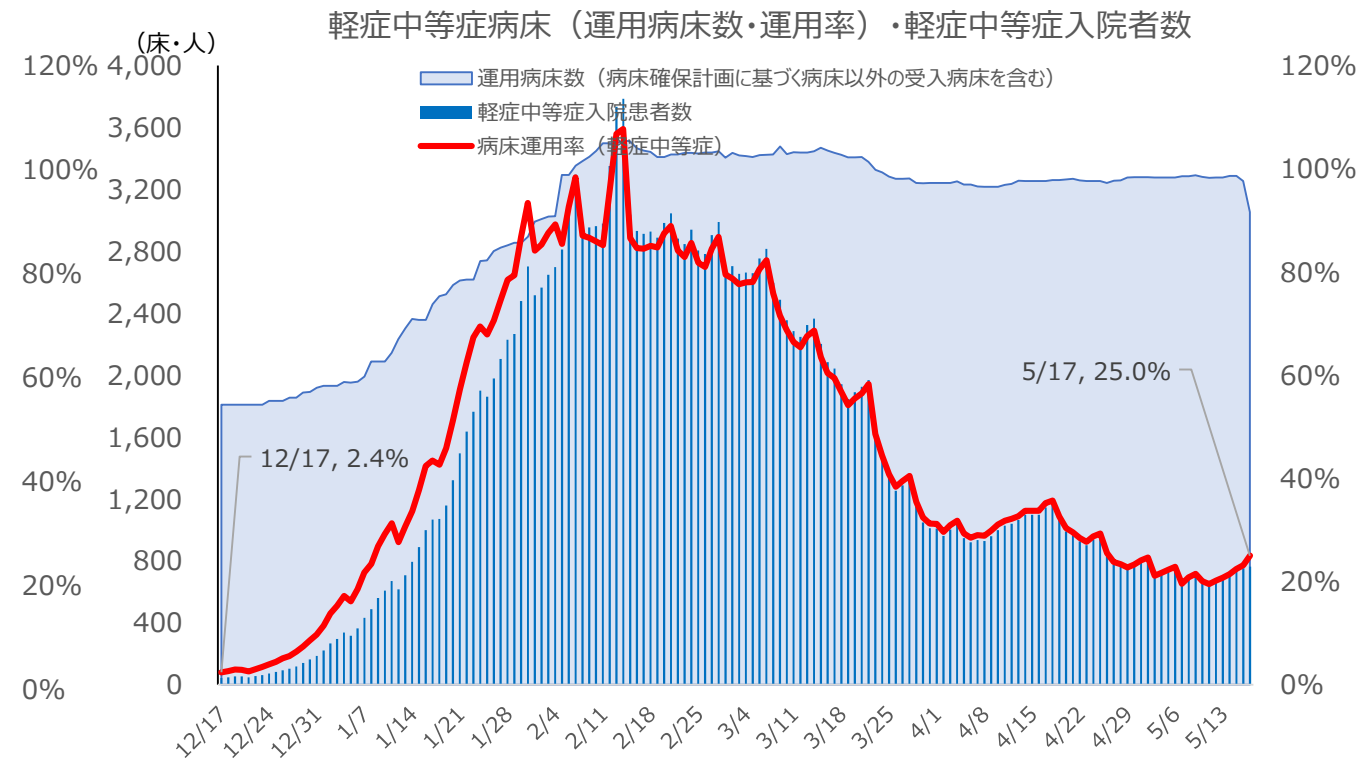


● 運用病床と運用率

5月17日現在 **病床運用率25.0%**

運用病床数 3,053床 入院患者数763人

※左記に同じ



※5月13日、受入医療機関に対し、フェーズ2への引下げを通知

新型コロナウイルス感染症宿泊・自宅療養者、入院・療養等調整中者数

◆ 宿泊療養施設居室使用率は、5月17日時点で14.5%。

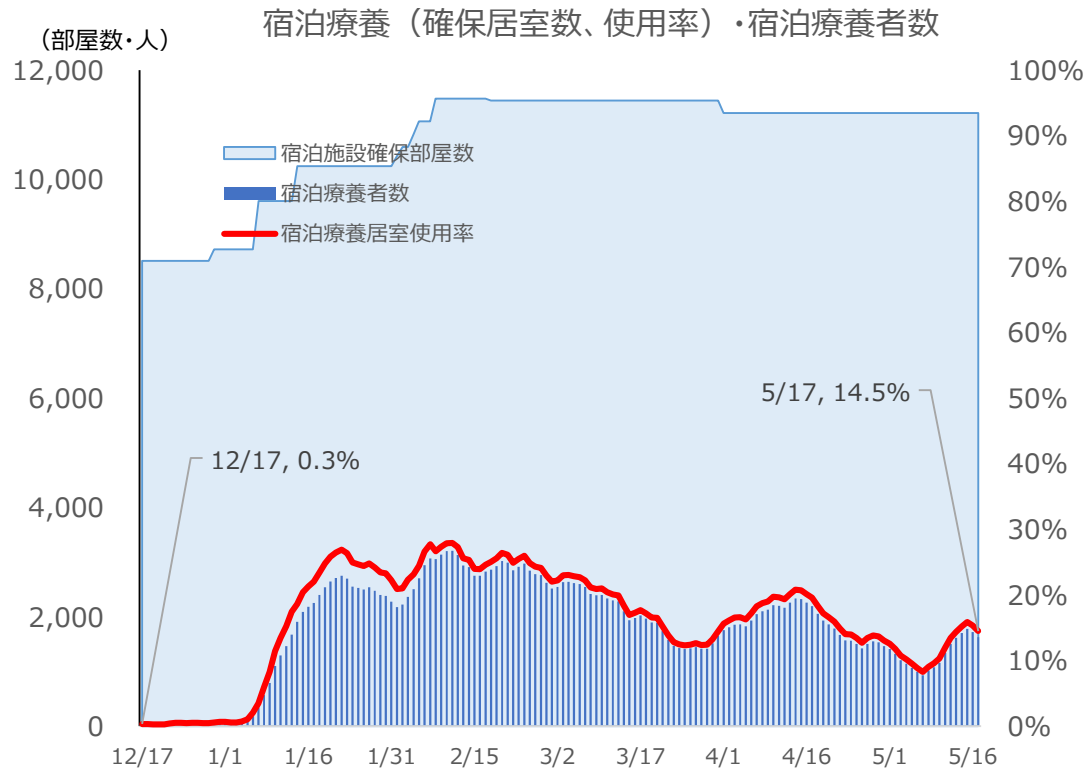
◆ 現在、自宅待機している方（自宅療養者数、入院・療養等調整中者数の合計）は27,517人。

● 宿泊療養施設使用状況

5月17日現在 使用率14.5%

居室使用数11,216室 療養者数 1,625人

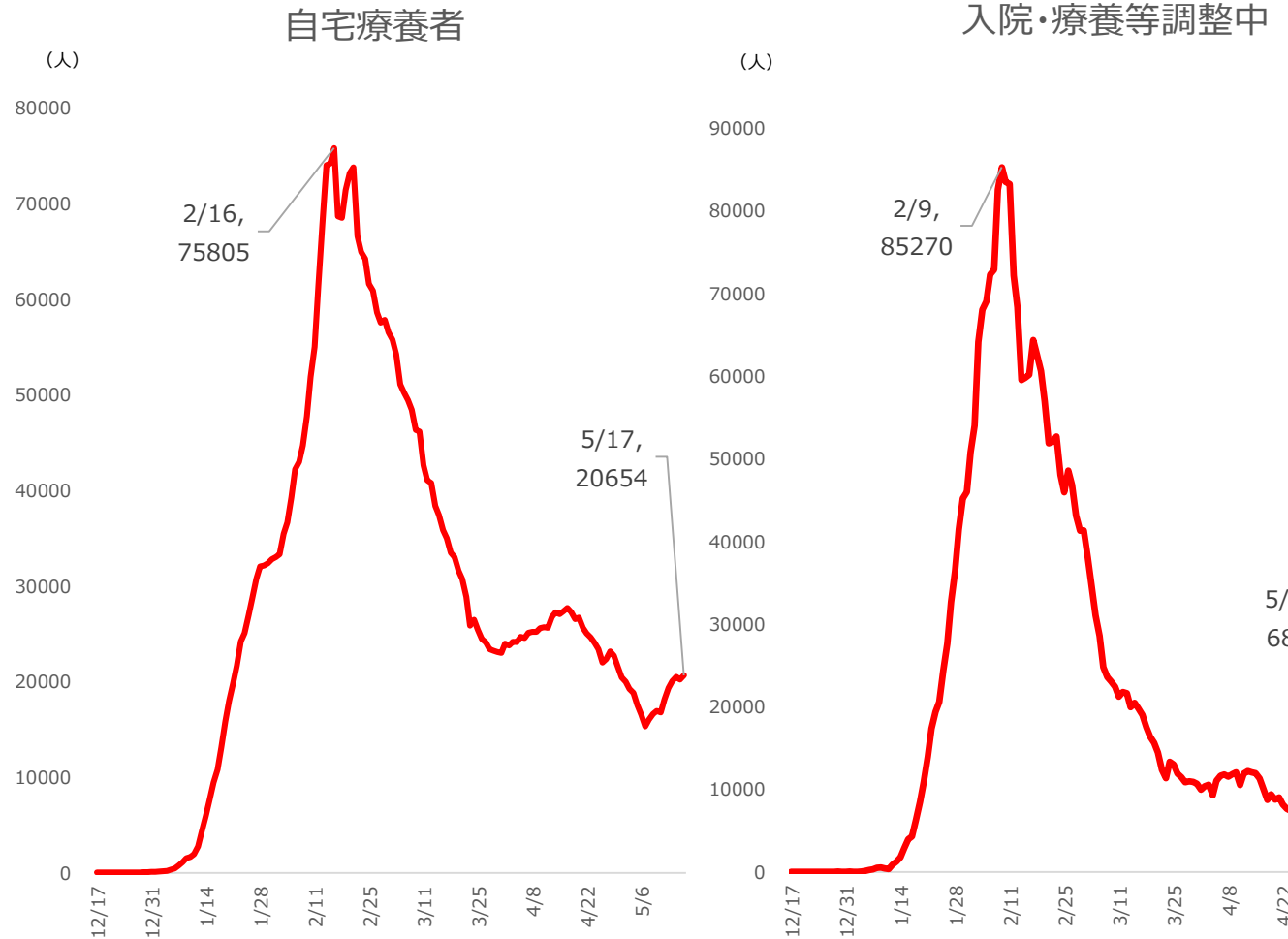
運用率18.6%（運用居室数 8,732室）



宿泊療養施設のうち、臨時医療施設（150室）における療養者数は21人。

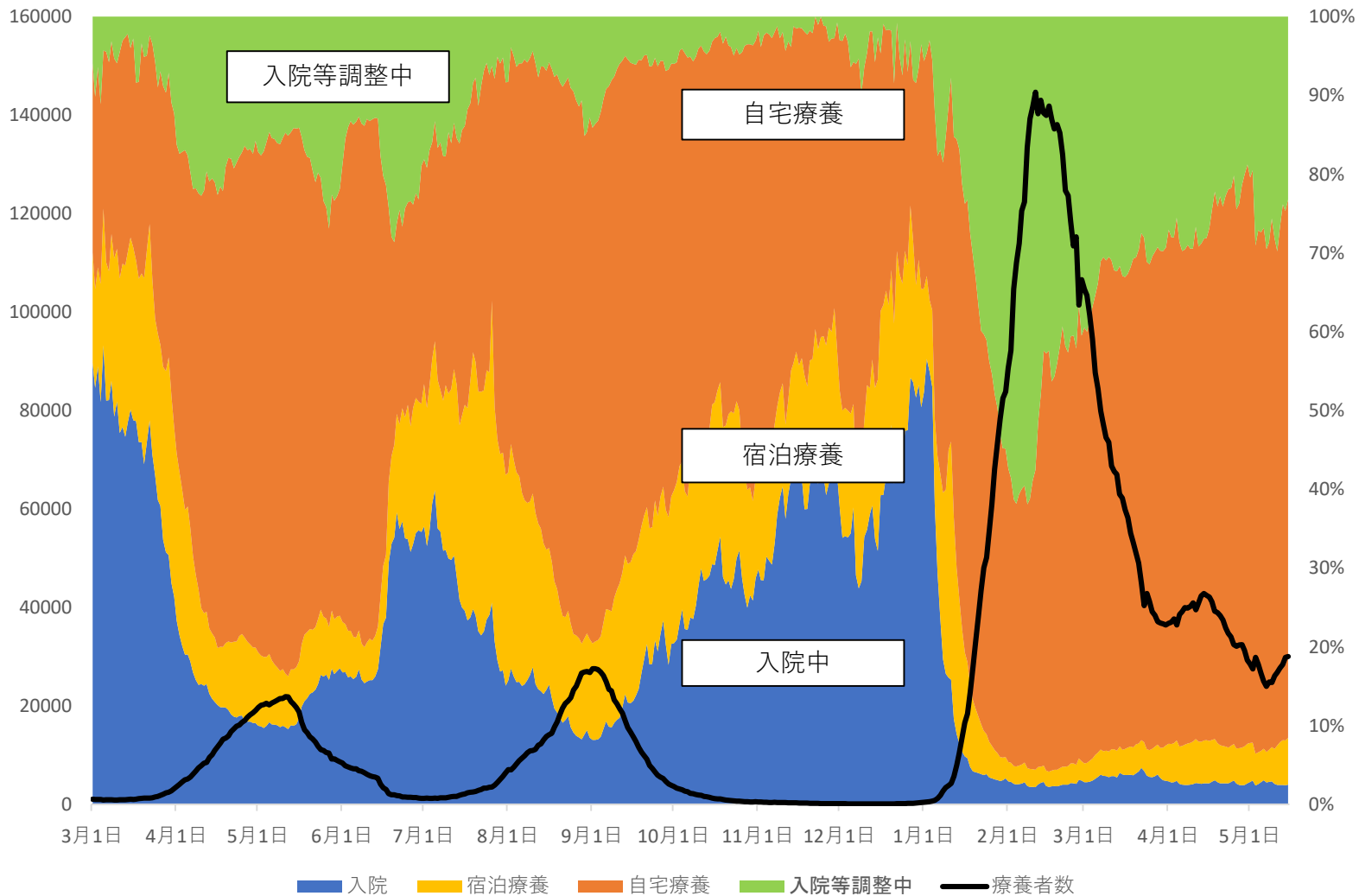
大阪コロナ大規模医療・療養センターは、4月30日で施設への新規入所の受付を終了し、最終入所者は5月8日に退所。施設は5月31日に閉鎖。

● 自宅療養者数と入院・療養等調整中の数



入院・療養状況 (5月15日時点)

◆ 入院率は、5月15日時点で2.5%。



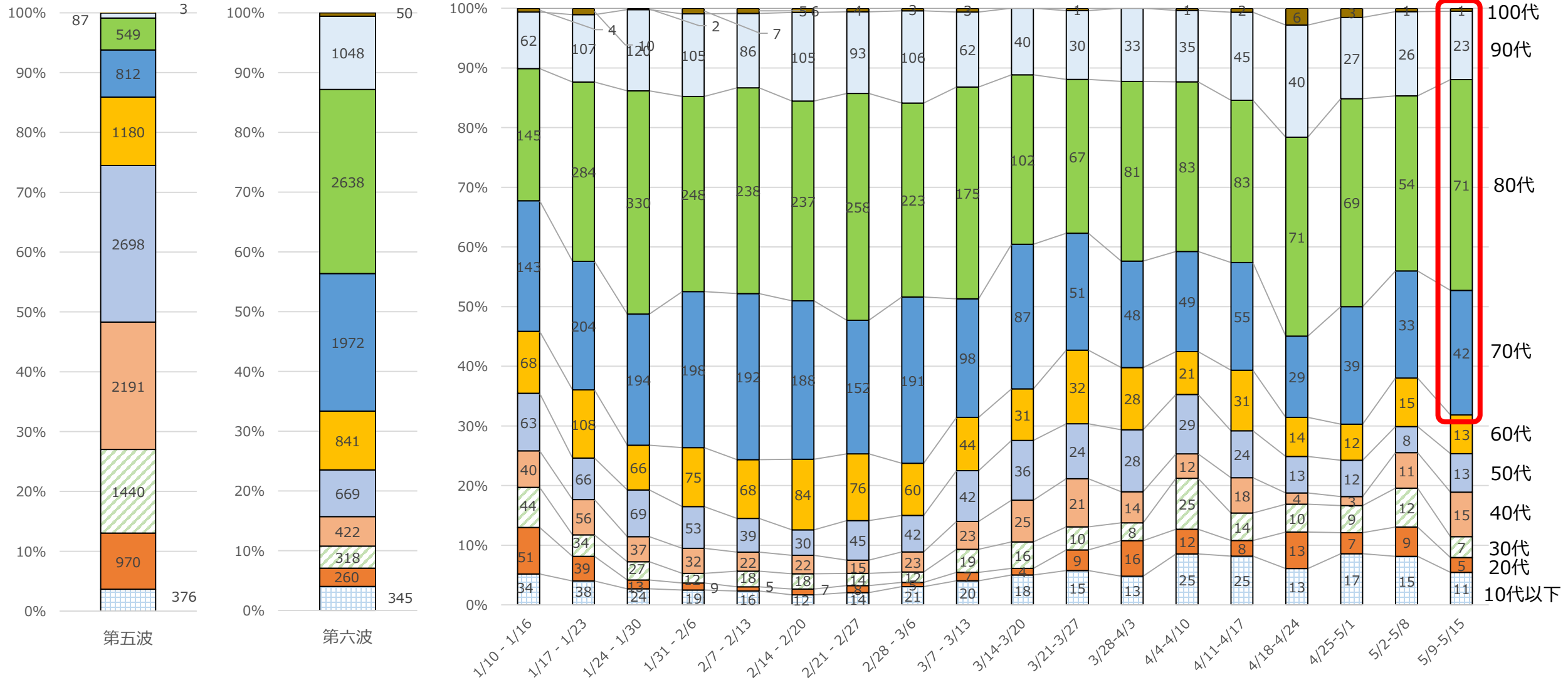
	第四波 (5/11)	第五波 (9/1)	第六波 (2/11)	第六波 (5/15)
入院等調整中	14.7%	14.1%	57.6%	23.2%
自宅療養	68.6%	65.5%	38.0%	68.3%
宿泊療養	6.8%	12.2%	2.2%	5.9%
入院中	9.8%	8.2%	2.2%	2.5%
療養者数	21,900人	27,587人	144,639人	30,027人

※第四波、第五波は、最大療養者数となった日
 ※2/11は第六波で最大療養者数となった日

※ 1月5日に患者の全員入院対応。1月7日、1月25日に入院・宿泊療養対象を見直し

入院調整時の入院患者の年代別割合（1月10日～5月15日）

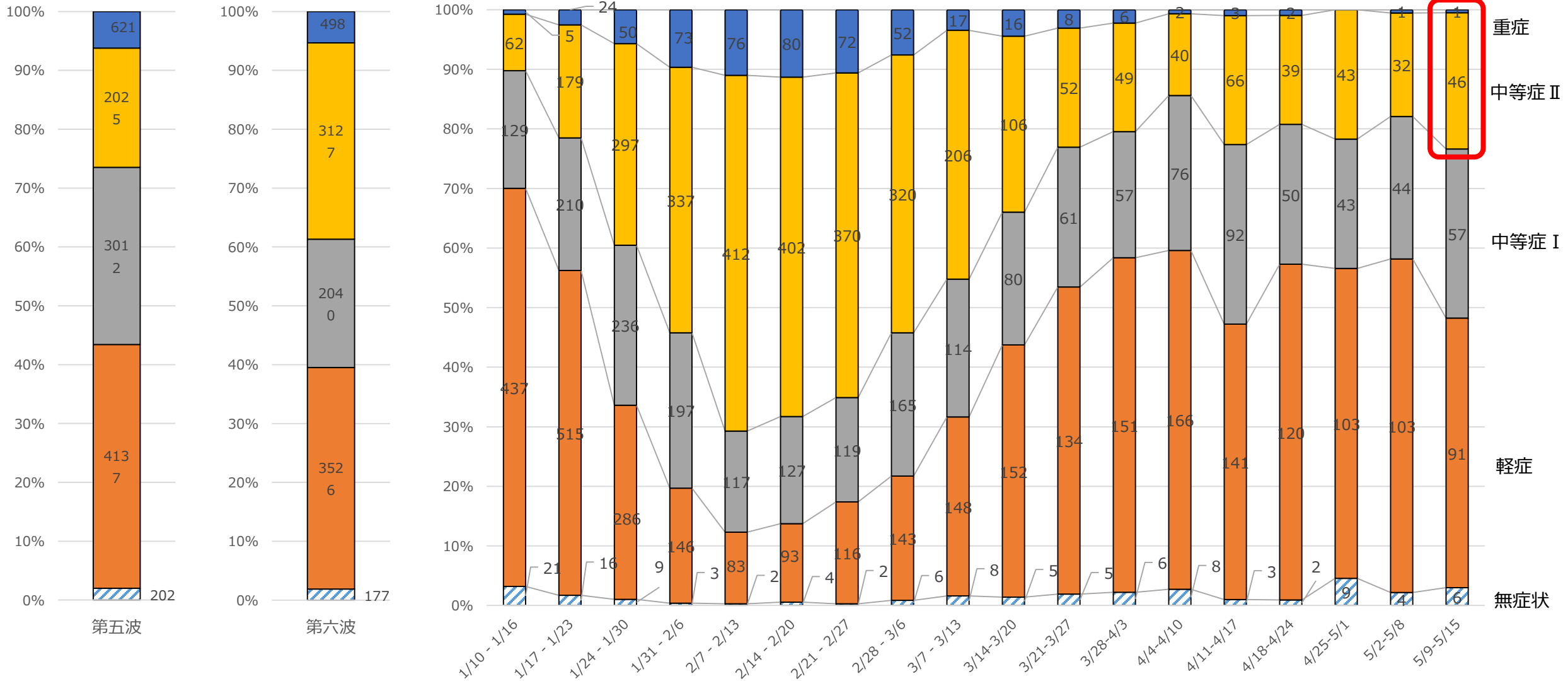
◆ 入院調整時の入院患者の直近1週間の年代割合は、70代以上が全体の約7割を占める。



※「大阪府療養者情報システム（O-CIS）」のデータに基づく。 ※1月10日以降においては年代不明の1件を除く

入院調整時の入院患者の症状（1月10日～5月15日）

◆ 入院調整時の入院患者の直近1週間の症状は、中等症Ⅱ以上が全体の2割強を占める。

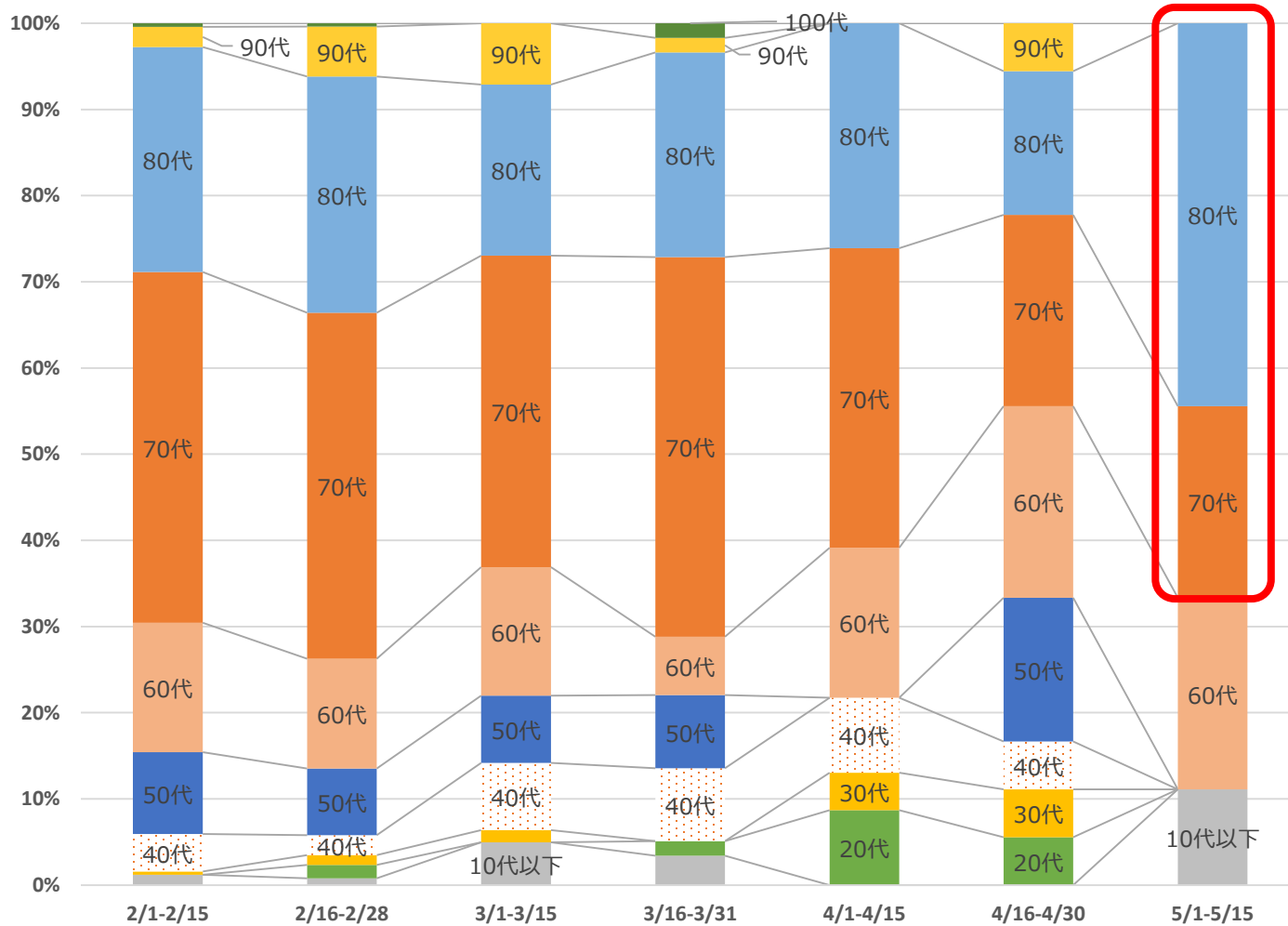


※入院調整時の患者の症状であり、入院後に症状が変化している可能性がある。 ※「大阪府療養者情報システム（O-CIS）」のデータに基づく。 ※1月10日以降においては症状不明の6件を除く

年代別新規重症者の内訳（公表日別）（5月15日時点）

- ◆ 5月1日～5月15日までの新規重症者のうち、70代以上が占める割合は約7割。
- ◆ 第六波全体における新規重症者に占める70代以上の割合においても約7割。

年代別新規重症者の内訳割合（2/1～5/15）

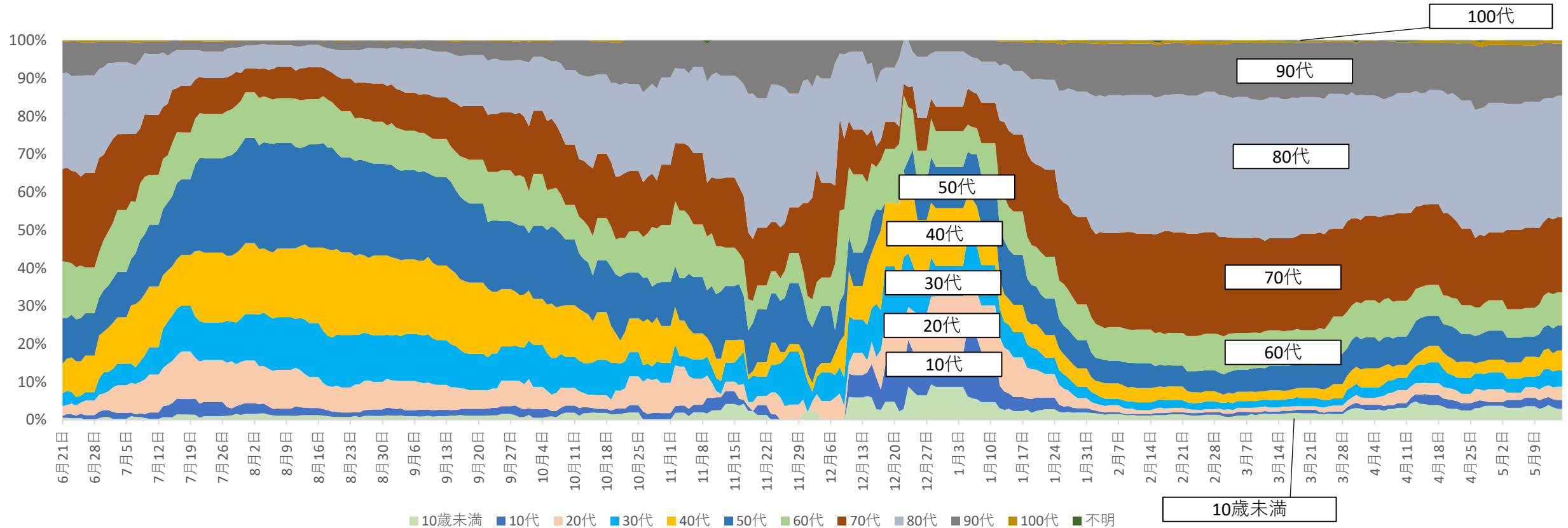


	第四波 (R3.3/1～ 6/20)	第五波 (R3.6/21～ 12/16)	第六波 (R3.12/17～)
新規陽性者数 累計	55,318人	100,891人	731,995人
新規重症者数	1,735人	1,024人	843人
30代以下	61人 (3.5%)	101人 (9.9%)	34人 (4.0%)
40・50代の 割合	491人 (28.3%)	553人 (54.0%)	117人 (13.9%)
60代以上の 割合	1,183人 (68.2%)	370人 (36.1%)	692人 (82.1%)
（うち、70代 以上の割合）	768人 (44.3%)	188人 (18.4%)	574人 (68.1%)

※新規重症者を公表日別に集計しているため、陽性判明日別に集計した各波の重症者数と人数が一致しない場合がある。
 ※第六波の各年代の割合は、5月15日時点までの新規重症者数に基づく。今後、新規重症者の推移により変動。

軽症中等症受入医療機関における入院患者数の年代別割合（5月15日時点）

◆ 5月15日時点で、軽症中等症入院患者のうち、70代以上は7割弱を占める。



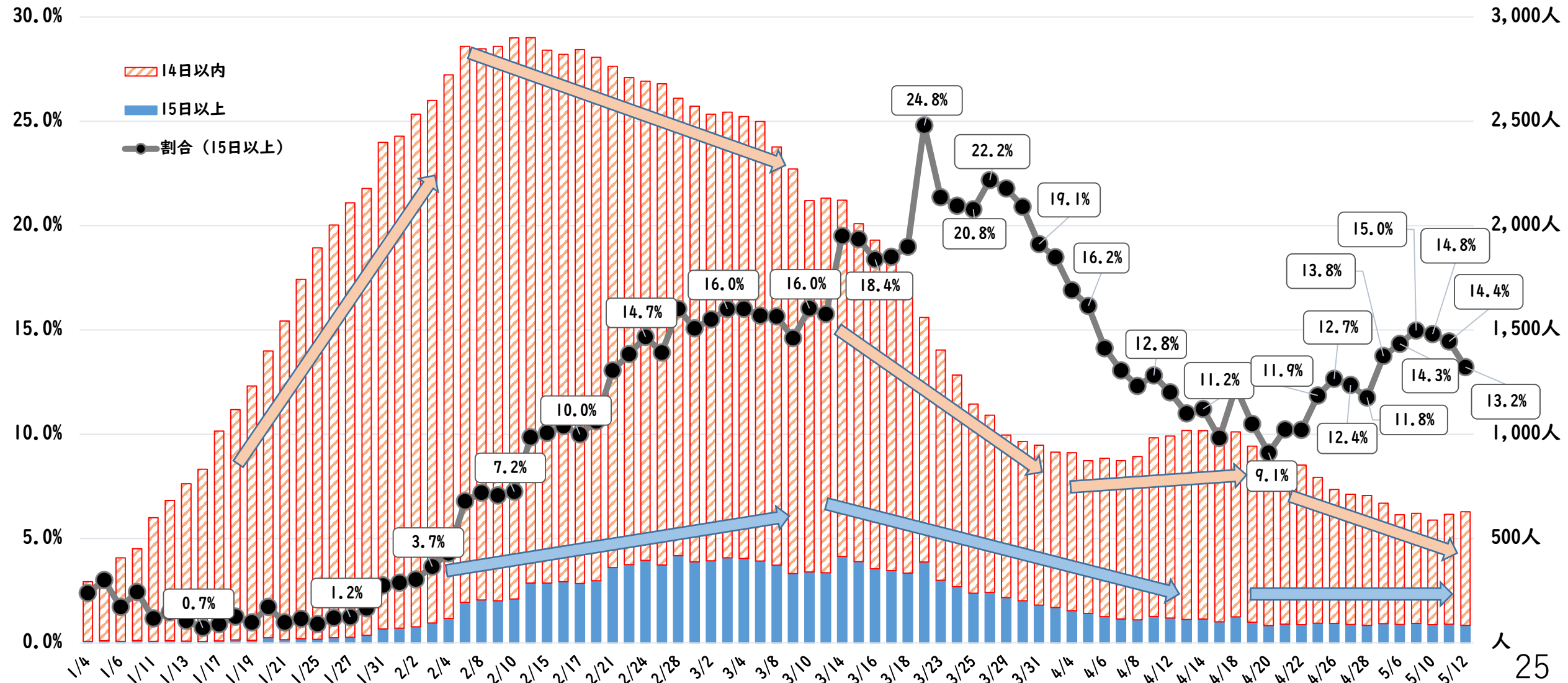
	第四波(5/12)	第五波(9/2)	第六波 (2/11)	第六波 (5/15)
60代未満	23.3%	66.3%	14.9%	24.8%
60代以上	76.7%	33.7%	85.1%	75.2%
(うち、70代以上)	(60.4%)	(23.0%)	(76.2%)	(66.4%)

※ 1月5日に患者の全員入院対応、1月7日に入院・宿泊療養対象を見直し

※第四波・第五波は最低入院率となった日、第六波(2/11)は最低入院率かつ療養者数が最大となった日

軽症中等症病床における長期入院患者の状況（15日以上入院患者の推移）（5月12日時点）

◆ 第六波の軽症中等症病床の入院患者に占める長期入院患者の割合は、2月から3月にかけて上昇（最大で24.8%）。3月中旬以降減少したものの、現在は再び増加傾向で、5月12日時点で13.2%。



4 重症・死亡例のまとめ

年代別重症化率の推移（陽性判明日別）（令和4年5月8日時点）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者（令和3年4/6～7/12、令和4年2/16～4/12）や他府県で受け入れている重症者（令和3年4/22～5/10）を含む。

重症化率	第一波 (R2.1/29-6/13)			第二波 (R2.6/14-10/9)			第三波 (R2.10/10-R3.2/28)			第四波 (R3.3/1-6/20)			第五波 (R3.6/21-12/16)			第六波（5/8時点） (R3.12/17-)		
	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率	新規陽性者数	重症者数	重症化率
未就学児	19	0	0.0%	157	0	0.0%	689	1	0.1%	1256	1	0.1%	4858	0	0.0%	59238	9	0.02%
就学児	13	0	0.0%	61	0	0.0%	336	0	0.0%	742	0	0.0%	3121	0	0.0%	46056	3	0.01%
10代	47	1	2.1%	621	0	0.0%	2679	0	0.0%	4631	1	0.0%	14445	3	0.0%	114387	4	0.00%
20代	364	2	0.5%	2996	1	0.0%	7079	2	0.0%	12138	21	0.2%	27012	25	0.1%	117748	10	0.01%
30代	290	5	1.7%	1424	2	0.1%	4654	14	0.3%	7640	40	0.5%	17066	74	0.4%	107626	9	0.01%
40代	306	13	4.2%	1160	14	1.2%	4851	42	0.9%	8223	146	1.8%	15521	230	1.5%	105872	43	0.04%
50代	258	23	8.9%	1047	38	3.6%	4994	142	2.8%	7622	348	4.6%	10942	324	3.0%	67234	74	0.11%
60代	161	35	21.7%	628	49	7.8%	3393	246	7.3%	4582	420	9.2%	3690	181	4.9%	33752	120	0.36%
70代	176	49	27.8%	580	79	13.6%	3657	451	12.3%	4378	564	12.9%	2221	120	5.4%	27592	327	1.19%
80代	118	18	15.3%	449	46	10.2%	2797	224	8.0%	3021	200	6.6%	1494	61	4.1%	21179	212	1.00%
90代	30	1	3.3%	145	3	2.1%	899	26	2.9%	923	16	1.7%	397	6	1.5%	7931	38	0.48%
100代	4	0	0.0%	3	0	0.0%	36	0	0.0%	46	0	0.0%	19	0	0.0%	395	3	0.76%
【再】 70代以上	328	68	20.7%	1177	128	10.9%	7389	701	9.5%	8368	780	9.3%	4131	187	4.5%	57097	580	1.02%
総計	1786	147	8.2%	9271	232	2.5%	36064	1148	3.2%	55318	1757	3.2%	100891	1024	1.0%	710076	852	0.12%

※重症化率：新規陽性者数に占める重症者の割合。

※重症化率は5月8日判明時点までの重症者数に基づく。今後、重症者数・新規陽性者数の推移により変動

年代別死亡率の推移（陽性判明日別）（令和4年5月8日時点）

死亡率	第一波 (R2.1/29-6/13)			第二波 (R2.6/14-10/9)			第三波 (R2.10/10-R3.2/28)			第四波 (R3.3/1-6/20)			第五波 (R3.6/21-12/16)			第六波（5/8時点） (R3.12/17-)		
	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率	新規陽性者数	死亡者数	死亡率
未就学児	19	0	0.0%	157	0	0.0%	689	0	0.0%	1256	0	0.0%	4858	0	0.0%	59238	0	0.00%
就学児	13	0	0.0%	61	0	0.0%	336	0	0.0%	742	0	0.0%	3121	0	0.0%	46056	0	0.00%
10代	47	0	0.0%	621	0	0.0%	2679	0	0.0%	4631	0	0.0%	14445	1	0.0%	114387	1	0.00%
20代	364	0	0.0%	2996	0	0.0%	7079	0	0.0%	12138	1	0.0%	27012	0	0.0%	117748	0	0.00%
30代	290	0	0.0%	1424	0	0.0%	4654	1	0.0%	7640	6	0.1%	17066	4	0.0%	107626	0	0.00%
40代	306	3	1.0%	1160	0	0.0%	4851	3	0.1%	8223	19	0.2%	15521	19	0.1%	105872	16	0.02%
50代	258	3	1.2%	1047	4	0.4%	4994	14	0.3%	7622	69	0.9%	10942	44	0.4%	67234	39	0.06%
60代	161	9	5.6%	628	13	2.1%	3393	55	1.6%	4582	137	3.0%	3690	48	1.3%	33752	94	0.28%
70代	176	29	16.5%	580	31	5.3%	3657	239	6.5%	4378	433	9.9%	2221	80	3.6%	27592	438	1.59%
80代	118	31	26.3%	449	70	15.6%	2797	414	14.8%	3021	605	20.0%	1494	120	8.0%	21179	807	3.81%
90代	30	10	33.3%	145	24	16.6%	899	202	22.5%	923	258	28.0%	397	38	9.6%	7931	475	5.99%
100代	4	2	50.0%	3	0	0.0%	36	10	27.8%	46	11	23.9%	19	4	21.1%	395	33	8.35%
【再】 70代以上	328	72	22.0%	1177	125	10.6%	7389	865	11.7%	8368	1307	15.6%	4131	242	5.9%	57097	1753	3.07%
総計	1786	87	4.9%	9271	142	1.5%	36064	938	2.6%	55318	1539	2.8%	100891	358	0.4%	710076	1903	0.27%

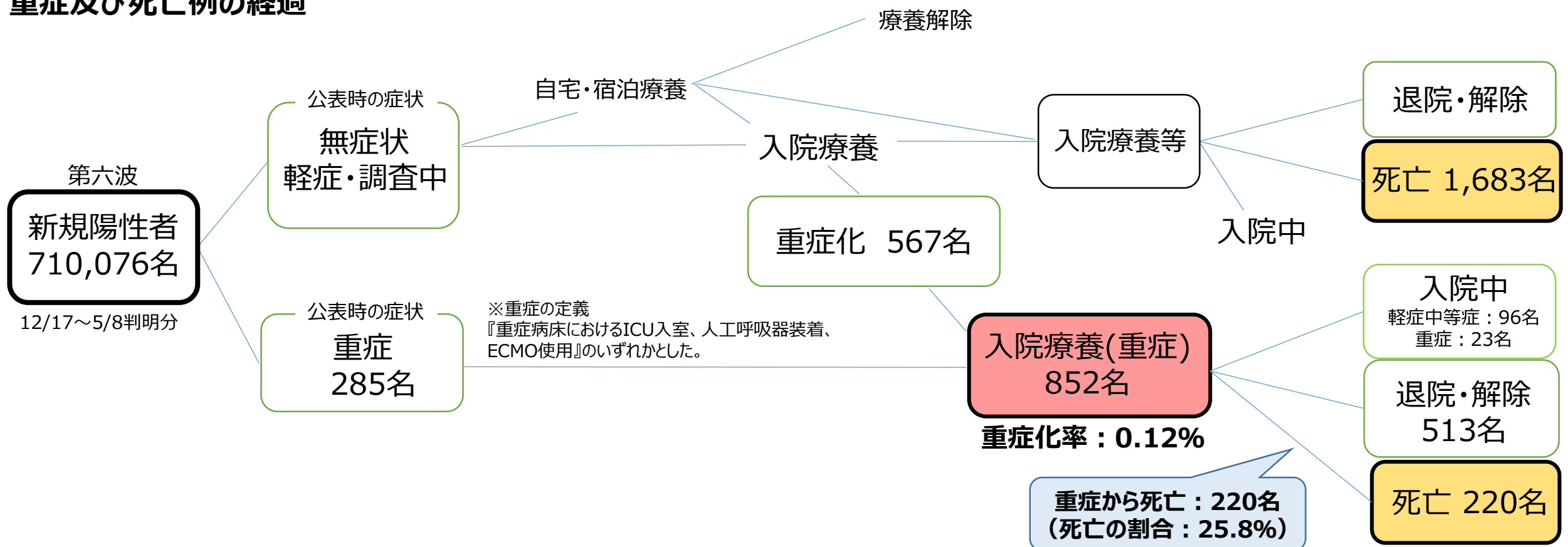
※死亡率：新規陽性者数に占める死亡者の割合。

※死亡率は5月8日判明時点までの死亡者数に基づく。今後、死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

【第六波】重症及び死亡例のまとめ（令和4年5月8日判明時点）

※死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

重症及び死亡例の経過



全国と大阪府の陽性者数と死亡者数（死亡率）の比較

2022/5/8判明時点

	累計 陽性者数	第一波	第二波	第三波	第四波	第五波	第六波	死亡者数 (死亡率)	第一波	第二波	第三波	第四波	第五波	第六波
		2020年 6/13まで	6/14～ 10/9	10/10～ 2021/2/28	3/1～ 6/20	6/21～ 12/16	12/17～ 2022/5/8		2020年 6/13まで	6/14～ 10/9	10/10～ 2021/2/28	3/1～ 6/20	6/21～ 12/16	12/17～ 2022/5/8
大阪府	913,406	1,786	9,271	36,064	55,318	100,891	710,076	4,967 (0.5%)	87 (4.9%)	142 (1.5%)	938 (2.6%)	1,539 (2.8%)	358 (0.4%)	1,903 (0.27%)
全国	8,041,650	17,179	70,012	343,342	350,398	943,478	6,317,241	29,777 (0.4%)	925 (5.4%)	698 (1.0%)	6,262 (1.8%)	6,510 (1.9%)	3,973 (0.4%)	11,409 (0.18%)

※重症率及び死亡率は5月8日判明時点までの重症及び死亡者数に基づく。今後、重症及び死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

新規陽性者数と重症・死亡例のワクチン接種歴（令和4年4月30日判明時点）

- ◆令和4年4月1日から4月30日に陽性判明した100,340名のうち、ワクチンを3回接種していた者は11,172名（11.1%）であった。
60代以上の陽性者9,121名のうち、ワクチン3回接種済は3,851名（42.2%）であった。
- ◆ワクチン3回接種済11,172名のうち、重症化したものは10名、死亡した者は13名（重症例10名のうち、2名は死亡のため重複）。
- ◆20代以上におけるワクチン接種歴別の重症・死亡の割合は、未接種者に比べ、3回接種済の者の方が低かった。

4月 陽性 判明	全体の 新規陽性 者数 【A】	ワクチン接種あり（3回）						ワクチン接種あり（2回以下）						接種なし・不明					
		陽性者数 【B】	割合 【B/A】	重症 【C】	重症者の 割合 【C/B】	死亡 【D】	死亡者の 割合 【D/B】	陽性者数 【E】	割合 【E/A】	重症 【F】	重症者の 割合 【F/E】	死亡 【G】	死亡者の 割合 【G/E】	陽性者数 【H】	割合 【H/A】	重症 【I】	重症者の 割合 【I/H】	死亡 【J】	死亡者の 割合 【J/H】
未就学児	8,885	0	0.0%	0		0		0	0.0%	0		0		8,885	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
就学児	6,738	0	0.0%	0		0		29	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	6,709	99.6%	0	0.0%	0	0.0%
10代	16,063	166	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	5,788	36.0%	0	0.0%	0	0.0%	10,109	62.9%	0	0.0%	0	0.0%
20・30代	35,097	3,032	8.6%	1	0.0%	0	0.0%	14,512	41.3%	2	0.0%	0	0.0%	17,553	50.0%	1	0.0%	0	0.0%
40・50代	24,336	4,111	16.9%	0	0.0%	0	0.0%	10,041	41.3%	3	0.0%	0	0.0%	10,184	41.8%	3	0.0%	1	0.0%
60代以上	9,121	3,851	42.2%	9	0.2%	13	0.3%	1,901	20.8%	4	0.2%	23	1.2%	3,369	36.9%	14	0.4%	56	1.7%
調査中	100	12	12.0%	0	0.0%	0	0.0%	44	44.0%	0	0.0%	0	0.0%	44	44.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	100,340	11,172	11.1%	10	0.1%	13	0.1%	32,315	32.2%	9	0.0%	23	0.1%	56,853	56.7%	18	0.0%	57	0.1%

※陽性者のワクチン接種状況は保健所による聞き取りやHER-SYSデータに基づく（4月30日判明時点）

※重症者及び死亡者の割合について令和4年5月8日判明時点までの重症・死亡者数に基づく。今後、重症・死亡者数の推移により変動することに留意が必要。

5 感染状況を踏まえた対応

第六波を上回る感染拡大を見据え、オミクロン株の特性を踏まえた「オール医療」の体制構築をすすめる。

※R4.4.28国事務連絡：オミクロン株の感染拡大の状況を踏まえると、かかりつけ患者や入院患者がコロナに感染した場合にも、引き続き、かかりつけの医療機関、当該入院患者が入院している医療機関で受診できることが望ましいと考えられることから、地域の医療機関で感染管理措置を講じる体制を構築することが重要

「オール医療」の体制構築に向けた取組み

※この他、「第七波に向けた保健所業務の重点化・医療療養体制の強化の方針と取組」(R4.3.22)に基づき、取組みを推進

取組み① 診療・検査医療機関の充実

令和4年5月10日「新型コロナウイルス感染症大阪府検査体制整備計画【改訂第3版】」策定済

取組実績等

- ①診療・検査医療機関の指定増（目標：現指定施設含め約3,100施設・約10,000件の能力増）
- ②日祝体制の強化

- ①2,439医療機関・診療所（5/10時点）
※全医療機関に占める割合：府26%、全国34%（4/24時点）

取組み② 自宅療養者への治療体制の充実

取組済

- ①健康観察・初期治療を行う診療・検査医療機関の拡充、HER-SYS入力への推進
- ②かかりつけ医（外来）、往診医（在宅医療）による初期治療や訪問看護師による健康観察の実施
- ③自宅療養者がアクセスできる医療機関（外来診療病院、往診医療機関、オンライン診療など）の充実

- ①1,151医療機関・診療所（5/13時点）
HER-SYS入力率71.4%（5/8時点）
- ②③ 診療・検査医療機関のうち、自宅療養者等への診療を行う医療機関（5/13時点）
コロナ診療 641、外来抗体治療 193 等

取組み③ 病床確保・医療機関での備えの充実

- ①感染急拡大時に備えたさらなる病床確保を受入医療機関に要請
- ②全病院に対し、自院患者が陽性となった場合の治療継続を要請し、そのための感染管理病床の備えを依頼
- ③確保病床を有しない病院に対しては、感染対策や治療にかかる支援体制を構築

- ①今後の取組み
- ②3/18要請済＋今後の取組み
- ③新型コロナ患者非受入病院連絡会議開催(4/5)
保健所圏域ごとに感染対策支援体制構築に向け取組み中（研修会、個別支援等）

取組み④ 高齢者の療養体制の充実

- ①要介護高齢者に対応する医療施設・病床の整備
- ②治療体制の強化や往診医療機関による往診体制の強化
- ③高齢者施設でのコロナ治療に対応できる協力医療機関の拡充

- ①今後の取組み
- ②往診協力医療機関 119機関
- ③協力医療機関を確保している施設数 約3割(4/1時点)
⇒52.2%（5/16時点）

病床確保・医療機関での備えの充実－第六波を上回る感染拡大を見据えた病床の考え方－

- ◆ 第六波ではオミクロン株による感染急拡大により、これまでにない規模の新規陽性者及び入院患者が発生
- ◆ 第六波の経験を踏まえ、医療提供体制のひっ迫を招いた主な課題を整理し、今後のさらなる感染拡大に備え、医療・療養体制及び病床確保に係る方針の見直しに加え、全病院での感染対策の備えについて検討
- ◆ 今後、この考え方をもとに、順次具体化を進めていく

<現状（5/12時点）> ※府内全医療機関数511 ※受入医療機関数には大阪コロナ重症センターを含まず

確保病床数：約4,000床（重症 622床、軽症中等症 3,375床）

受入医療機関数：210（重点医療機関 169、協力医療機関 36、その他の医療機関 25） ※重点と協力は重複あり

（重症拠点病院 11、中等症・重症一体型病院① 22、中等症・重症一体型病院② 44、軽症中等症病院 133）

主な課題

見直し対応案

<p>① 軽症中等症病床がひっ迫</p>	<p>今後の感染急拡大時に備えたさらなる病床確保を、受入医療機関に新たに要請</p>
<p>② 新型コロナ以外の原疾患（基礎疾患）を有する患者の割合が増加</p>	<p>要請済み [3/18付]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非受入病院：自院患者が陽性となった場合、中等症 I まで自院での治療継続を要請 ・受入医療機関：自院患者が陽性と判明した場合、自院で原疾患とあわせて治療継続を要請
<p>③ 院内クラスター等による自院での患者が多数発生</p>	<p>全病院に対し、自院での感染管理病床の備えを依頼</p>
<p>④ 高齢の患者が増加</p>	<p>要介護高齢者に対応する医療施設・病床の整備を検討中</p>
<p>⑤ 「中等症・重症一体型病院②」の位置付け 院内で中等症病床から重症病床に移行する事例が少なく、重症病床の活用が不十分</p>	<p>医療機関分類について見直し・整理を実施</p>

病床確保・医療機関での備えの充実－病床の確保及び各病院における備え－

- ◆ 第六波においては、確保病床を超える入院患者が発生したため、さらなる受入病床の確保が必要
- ◆ 今後、全ての医療機関にコロナ患者が一定割合発生することを想定し、他疾患（外傷含む）での入院患者を診療科を超えて受け入れる「**オール医療**」の体制構築が不可欠
- ◆ これまでコロナ治療の経験がない病院を支援するため、保健所圏域ごとの中核的な医療機関を中心とした支援ネットワーク体制の構築が必要

入院治療が必要な患者

① コロナの症状が重い患者（中等症Ⅱ以上など）／ コロナの治療を先行する必要がある患者

<例>

- 5/11第83回アドバイザリーボード資料より
 - ・ 陽性者数約22,000人/日の場合、入院率3%で約5,600人
 - 陽性者数約30,000人/日(第六波2倍)の場合
 - ・ 入院率2.2%(第六波最低入院率)で約6,600人
 - ・ 入院率3%(第六波平均入院率)で約9,000人
- ※ 仮に第六波最大と同程度の入院患者数4,000人としても、稼働率80%の場合は約5,000床必要となる

② コロナの症状は軽い（概ね中等症Ⅰまで）が、他疾患で入院が必要な患者（クラスターを除く）

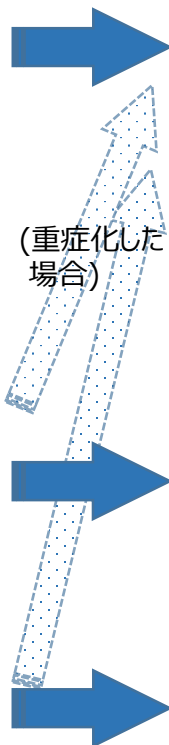
<例>

- ・ 府内全病院の新規入院者3,545人/日(R1病院報告)×10日×11.8%(1/31-2/27 無料検査陽性率)=約4,200人
- ・ 府内全病院の新規入院者3,545人/日(R1病院報告)×10日×14.1%(1/31-2/6、2/7-2/13 無料検査最高陽性率)=約5,000人

③ 医療機関関連クラスター患者

<例>

- ・ 陽性者数約20,000人/日×10日×0.8%(第六波陽性者に占める医療機関関連クラスター陽性者割合)=約1,600人
- ・ 陽性者数約30,000人/日×10日×0.8%(第六波陽性者に占める医療機関関連クラスター陽性者割合)=約2,400人



病床の確保・備え

受入医療機関確保病床

既確保病床

約4,000床

緊急避難的確保病床

- ・ 許可病床数(一般)に占める確保病床数の割合が平均(約10%)未満の病院に対し、病床ひっ迫時に、運用開始後一定期間に限り、平均程度まで確保病床の増床を要請

全病院

自院患者コロナ陽性病床の備え

- ・ 第六波における無料検査の陽性率程度、病院内でも陽性者が発生することを想定し、許可病床の10%程度を「自院患者コロナ陽性病床」（確保病床外で、感染管理がとれる病床）として備えていただくよう依頼
- ・ 受入医療機関については、ひっ迫時以外(フェーズ1,2)は上記確保病床内での対応も可

支援策等の整理（既存）

- ・ 設備等整備事業補助
- ・ 個人防護具等資材提供等（入手困難な場合等）
- ・ 空床補償
- ・ 消毒経費の補助
- ・ コロナ診療報酬
- ・ 感染症対策加算（重点/協力の場合）

- ・ 個人防護具等資材提供（入手困難な場合等）
- ・ クラスター空床補償
- ・ 空床補償
- ・ 消毒経費の補助
- ・ コロナ診療報酬

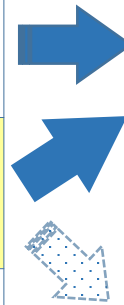
- ◎ 確保病床を有しない病院に対して、保健所圏域ごとに感染対策や治療にかかる支援体制の構築を進める

受入医療機関の病院機能分類の見直し

- ◆ 現在、円滑な入院調整を図るため、受入医療機関を「重症拠点病院」、「中等症・重症一体型病院①」、「中等症・重症一体型病院②」、「軽症中等症病院」に機能分化
- ◆ 第六波では、オミクロン株の特性から、院内で中等症病床から重症病床に移行する事例が少なく、その結果、中等症・重症一体型病院②の重症病床の活用が不十分だった（参考：重症化率 第四波3.2%、第五波1.0%、第六波0.13%）
- ◆ そこで、医療機能分化の基本的な考えは維持しつつ、分類について見直し、**中等症・重症一体型病院②を廃止**
（中等症・重症一体型病院①を「中等症・重症病院」に名称変更）
- ◆ 中等症・重症一体型病院②における重症病床については、外部からの重症患者を受け入れる病床（又は軽症中等症病床のいずれか）に位置付け

現 在

医療機関分類	重症※1	軽症中等症
重症拠点病院 (11機関 計234床)	◎ ECMO対応可 (234床)	△ 一部機関受入
中等症・重症 一体型病院① (22機関 計913床)	○ (241床)	○ 主に中等症 (672床)
中等症・重症 一体型病院② (44機関 計1,128床)	○ 院内重症化患者 (147床)	○ 主に中等症 (981床)
軽症中等症病院 (133機関 計1,722床)	—	◎ (1,722床)



見直し案

医療機関分類	重症※1	軽症中等症
重症拠点病院	◎ ECMO対応可	△ 一部機関受入
中等症・重症 病院	○※2	○ 主に中等症
軽症中等症病院	—	◎

※1 次のいずれかに該当する患者（人工呼吸管理をしている患者、ECMOを使用している患者、重症病床における集中治療室（ICU）に入室している患者）

※2 重症患者に加え、ひっ迫時には中等症患者を受け入れていただく、可変的な病床とすることを検討

＜参考資料＞ 第五波と第六波における軽症入院患者の比較

- ◆ 軽症者の入院患者を第五波と第六波で比較すると、消化器科、循環器科、脳神経外科、産婦人科等、呼吸器科以外の診療科の疾患により、コロナ以外の緊急治療が優先される患者の割合は、第五波が7%、第六波は19%と増加した。
- ◆ コロナ陽性者でも、他疾患の緊急治療が必要な場合、コロナ確保病床やコロナ受入医療機関に限らず、全ての医療機関や診療科で対応が可能な医療体制が求められる。

● 軽症で新規入院した患者の内訳(元々基礎疾患で入院中の患者を除く)

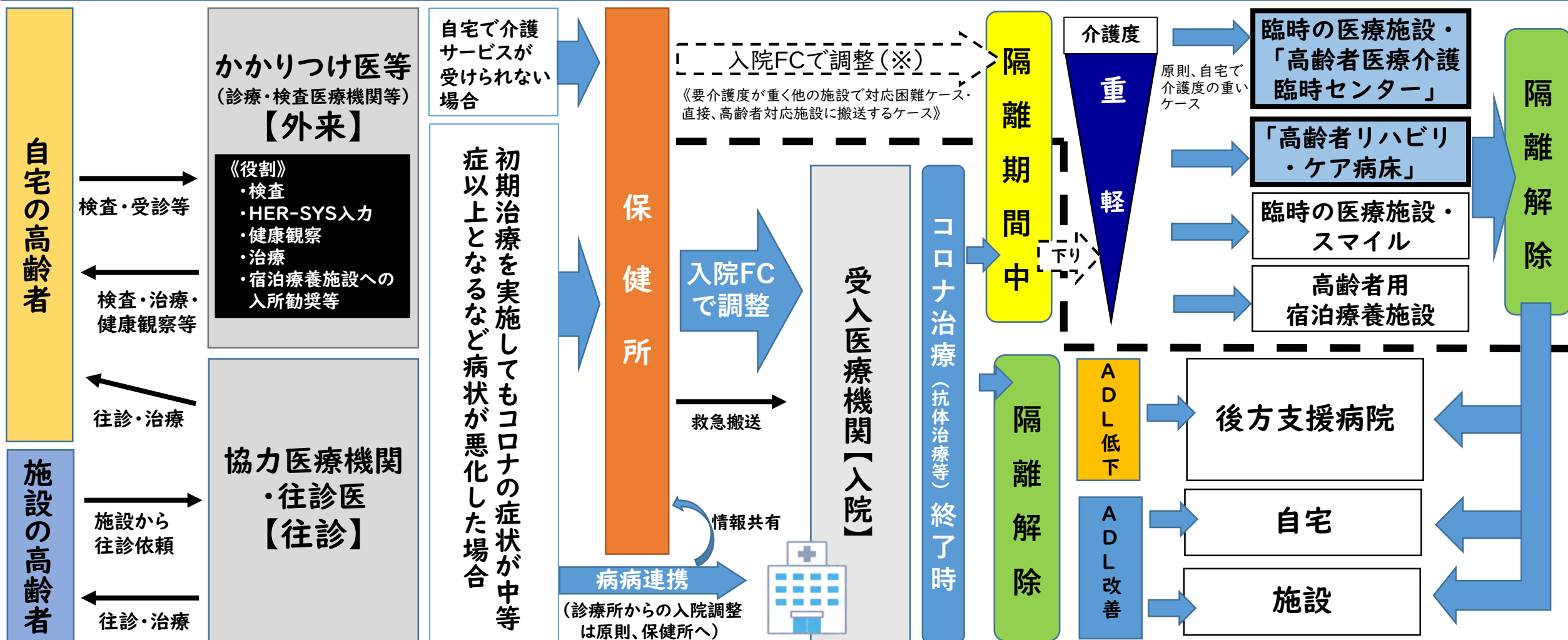
	第五波	第六波	方向性
○ <u>他疾患の緊急治療が優先され入院対象となった患者</u> ・ 救急対応 (脳梗塞、心不全、吐下血、急性腹症、骨折、脱水 等) ・ 他疾患等 (陣痛発来、脊髄損傷悪化 等)	7% (18人)	19% (43人)	原疾患の 診療科で対応要 (コロナの症状が 悪化した場合は コロナ確保病床へ)
○ <u>コロナの治療のため入院療養となった患者</u> ・ 呼吸苦、高熱持続 ・ (第5波) 抗体カクテル療法目的	41% (106人)	6% (13人)	コロナ 確保病床へ
○ <u>基礎疾患のリスク等を踏まえて入院となった患者</u> ・ 透析、妊婦、悪性疾患、精神疾患 ・ 高血圧、糖尿病 等 ・ 小児科 等	52% (135人)	75% (166人)	

※ 入院FCで調整した軽症入院患者のうち、自宅(高齢者施設を含む)・宿泊療養施設からの入院を集計。第五波:令和3年8月23日～29日(計259人)、第六波:令和4年2月1日～15日(計222人)。

新型コロナの高齢者（自宅・施設）の療養フロー

- ◆ 自宅の高齢者はかかりつけ医（外来）もしくは往診医（在宅医療）、施設の高齢者は協力医療機関や往診医（施設往診）が初期治療を実施
- ◆ 隔離期間中であっても介護度の軽重に応じ、臨時の医療施設への転院や高齢者リハビリ・ケア病床への転床を促進
- ◆ 入院中の高齢者はコロナ治療が終われば、高齢者用宿泊療養施設・後方支援病院への転送や自宅・施設に戻っていただく

陽性判明～初期治療～療養～入院～転退院までのフロー



(※) 臨時の医療施設、「高齢者リハビリ・ケア病床」等での療養が可能と判断した場合（施設の稼働状況を踏まえ調整）

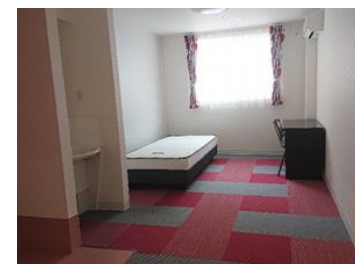
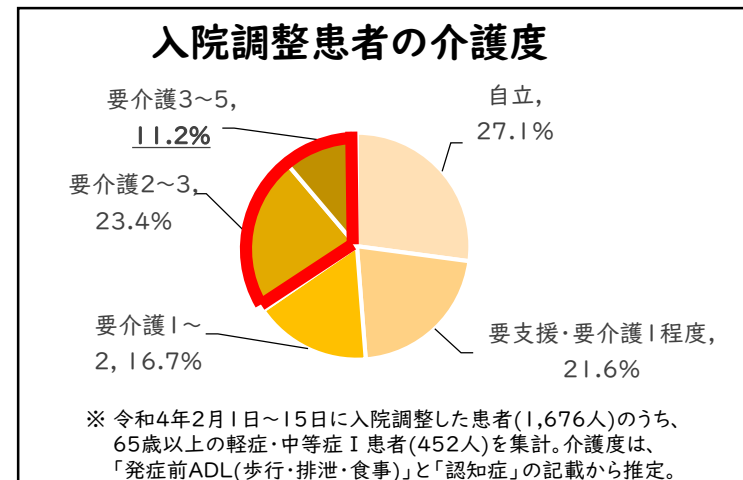
臨時の医療施設・「高齢者医療介護臨時センター」の整備

～福祉施設を転用した要介護高齢者向け臨時の医療施設は全国初～

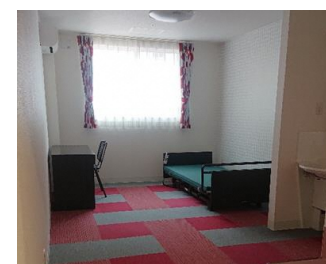
◆ 要介護度の重い方を受け入れ、介護的ケアやリハビリ対応を行いながら、中和抗体薬や経口薬の投与などのコロナ治療を実施する臨時の医療施設・「高齢者医療介護臨時センター」を新たに設置

「高齢者医療介護臨時センター」の整備

施設の位置付け	特措法第31条の2に基づく「臨時の医療施設」(設置者:大阪府知事)
設置場所	大阪市住之江区に所在する新築の福祉施設を転用(借上げ)
設置期間	令和4年7月1日から令和5年3月末予定
運営方法	コロナ受入医療機関である医療法人の系列の介護施設等を活用し、同医療法人に臨時の医療施設の運営を委託 (施設転用・人材確保・運営に係る事業一式を一体的に同法人が担う) 【医療法人 成和会(北大阪ほうせんか病院)、社会福祉法人 福祥福祉会】
対象患者診療内容	軽症、中等症Ⅰ程度の要介護3以上の患者で原則として自宅において介護サービスを受けることが困難な患者を対象とし、介護的ケアやリハビリ対応を行いつつ、中和抗体薬や経口薬の投与などの治療を実施
病床数	40室(床)程度(ゾーニングによって変動あり)
スタッフ	医師、看護師、薬剤師のほか、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士などの専門職を配置
療養環境の特徴	・医療機関や宿泊療養施設よりも手厚い介護を受けることが可能 ・入所時から治療と同時にリハビリを受けることにより、ADLの低下を防ぎ、療養期間の短縮化を図る



居室①



居室②



居室内トイレ



浴室

入所する患者像、患者像を踏まえた運用ルール、スタッフ数、治療内容などの運用面の詳細は、受託法人を交え今後検討

「高齢者リハビリ・ケア病床」の確保 ①

◆ コロナ受入病棟において介護福祉士や理学療法士などの専門職を配置し、中等度以上の介護的ケアや入院初期からのリハビリ対応を行うことにより、要介護高齢患者の受入促進や入院期間の短縮化を図る

1. 体制確保協力金（新規）

府内に所在する新型コロナウイルス感染症患者受入病院であって、専門職(※)をコロナ病棟に専任として配置し、中等度以上の介護的ケアやリハビリ対応が可能な体制を整備する医療機関

(※)専門職：介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ケースワーカー（精神科病床等）

【交付条件】

介護保険制度における要介護度の区分が「要介護2以上」の患者の受入

【交付額】

- ① 要介護高齢患者の受入に対する病床数及び専門職を配置して対応した月数に応じて基礎支援額を交付
- ② 介護・リハビリに必要な物品を整備する場合、加算額を増額交付

対象病床数	① 基礎支援額	② 加算額
10床（最低）～19床	20万円×対応月数	20万円
20床～29床	40万円×対応月数	40万円
30床～39床	60万円×対応月数	60万円
40床～49床	80万円×対応月数	80万円
50床（最大）	100万円×対応月数	100万円



- ◆ コロナ受入病棟において介護福祉士や理学療法士などの専門職を配置し、中等度以上の介護的ケアや入院初期からのリハビリ対応を行うことにより、要介護高齢患者の受入促進や入院期間の短縮化を図る

2. 増床時の設備整備補助金（既存）

府内に所在する新型コロナウイルス感染症患者受入病院であって、要介護高齢患者を受け入れるために、新たにコロナ病床を増床する医療機関

【交付条件】

既存病床に加え、新たに要介護高齢患者を受け入れるコロナ病床の増床
(新規で新型コロナウイルス感染症患者受入病院となった場合の病床も対象)

【交付額】

介護・リハビリに必要な物品の補助：1床あたり133,000円

(歩行器、エルゴメーター、平行棒などの費用に充当可)

簡易病室の設置補助：知事が必要と認めた額



検査需要 ⇒ 1日当たりの検査需要：54,600件 (①÷②)

- ①通常検査により判明する新規陽性者数の想定 ⇒ 27,300人
 - ◆過去の新型コロナウイルス感染症新規陽性者数の最大値（令和4年2月11日）の2倍を想定。
15,291人×2倍=約30,000人
 - ◆うち、通常検査で判明する割合：約91%（R4.2月ピーク時実績で試算）
- ②想定陽性率 ⇒ 50%
 - ◆過去の新型コロナウイルス感染症の週間最大陽性率及び直近5か年の1年当たりのインフルエンザ検査最大実績(H29)の陽性率を参考に設定。

検体採取体制 ⇒ 1日当たりの体制：56,000件 (A+B)

医療機関における体制

【方向性】

- ・各医療機関の最大能力の和と同日内における最大実績に36%の差異。
- ・更なる体制が必要であるため、約800施設の診療・検査医療機関の増加及び日曜祝日体制の強化を図る。

【取組み】

- ・未指定の医療機関に対し、指定に向けた個別の架電勧奨を実施
- ・検査に関する制度周知（感染対策、検査手法、診療報酬、支援制度等）の充実
- ・日曜祝日にコロナ検査のため開院する医療機関に対する支援策を検討

現時点の能力	診療・検査医療機関	その他医療機関
約42,000件	約35,000件	約7,000件



確保する能力
約52,000件 ……A

保健所等における体制 1日当たり約4,000件……B

検査分析体制 ⇒ 1日当たりの体制：66,800件

合計	地方衛生研究所・保健所	民間検査機関	医療機関
約66,800件	約1,700件	約11,800件	約53,300件

点検結果

検査需要	検体採取能力	検査分析能力
約54,600件	約56,000件 (需要+約1,400件)	約66,800件 (需要+約12,200件)

✓ 今後の更なる感染拡大に備えるためにも、医療機関の能力拡充により、検査需要に対応できる体制を確保。

医療機関による発生届のHER-SYS入力促進

- ◆ 大規模な感染拡大時において、医療機関からFAXによる発生届の提出により保健所業務がひっ迫。
- ◆ 今後のさらなる感染拡大に備え、患者情報を迅速に共有し、重症化リスクの高い陽性者への対応を確実に実施するため、医療機関においてHER-SYS入力による発生届の提出を促進

◇取組概要

- 診療・検査医療機関（2,186機関）すべてに対して、HER-SYSによる発生届入力について文書により協力要請
- 過去にFAXによる発生届の提出のあった医療機関（2,078機関）に対し、架電又は訪問による働きかけを実施
- 4月13日診療・検査医療機関担当者を対象に、HER-SYSの利用方法に関する研修会を実施（500名参加）

◇架電等による聞き取り状況（R4.4.20時点）

FAXによる発生届出のあった医療機関※

2,078機関、309,365件

※過去に6件以上の発生届を提出した医療機関

実施済又は実施予定

707機関、135,257件

検討中

496機関、68,369件

困難、予定なし

875機関※2、105,739件

※2うち病院72機関、診療所803機関

【HER-SYS入力割合】（R4.4.11時点）

医療機関入力率

大阪府

55%

全国平均

68%

（R4.5.8時点）

医療機関入力率

大阪府

71.4%※

全国平均

—

※府のHER-SYS入力情報を集計

◇今後の取組

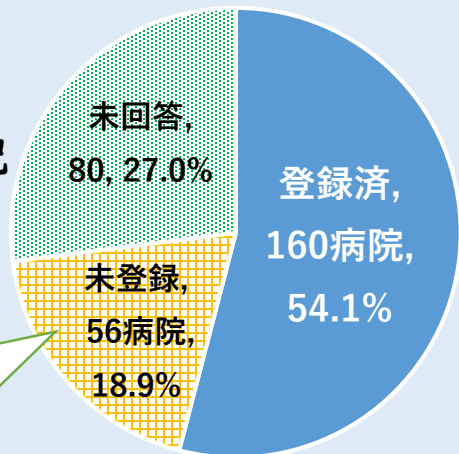
※「検討中」と回答した医療機関の課題を抽出の上、特に発生届の件数の多い医療機関を中心に、導入支援を行う。

新型コロナ患者の確保病床を有しない病院に対する感染対策支援体制の構築等の状況

治療薬のセンター登録状況

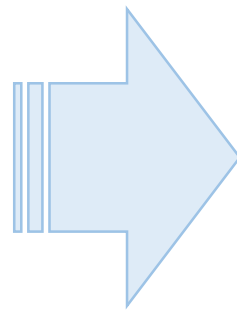
※経口治療薬、中和抗体薬のいずれかの登録センターに登録している病院の割合

4/12時点における
実態調査(アンケート)
回答済の216病院の状況

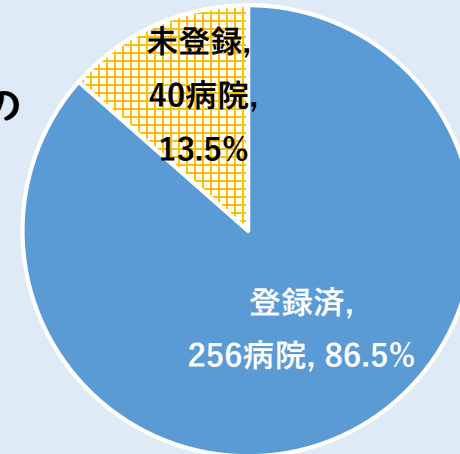


抗ウイルス薬(レムデシビル)の投与実績がある5病院(2.3%)を含んでいる。

登録確認済160病院/確保病床を有しない病院296病院(54.1%)



5/17時点における
確保病床を有しない病院の
うち、眼科・歯科病院等を
除く296病院の状況



登録確認済256病院/確保病床を有しない病院296病院(86.5%)

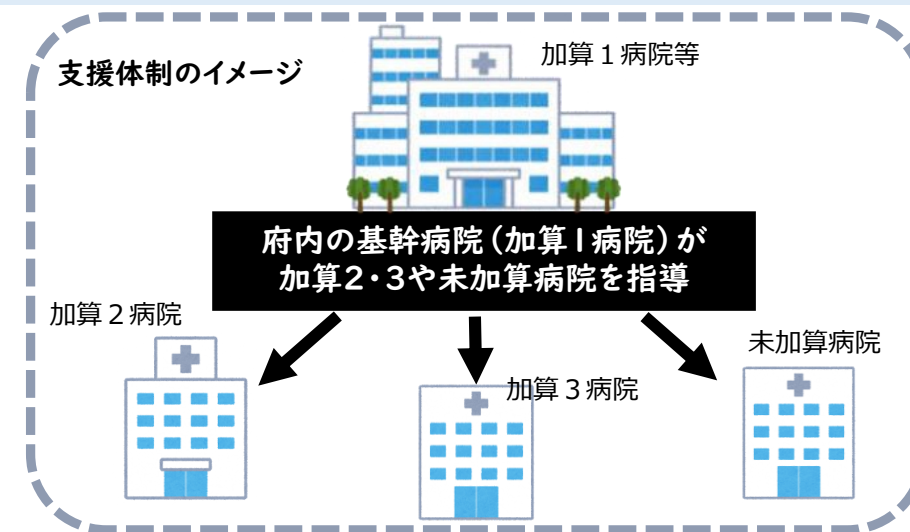
保健所圏域ごとの感染対策支援体制構築の取組状況(18保健所)

ネットワーク体制による支援

連絡会議等を開催済	5保健所
連絡会議等を開催予定	1保健所
研修会等を開催予定	4保健所
個別の病院へ働きかけ	4保健所

保健所等が個別の病院へ働きかけ

4保健所



引き続き、確保病床を有しない病院への支援と治療体制の充実を図っていく。

高齢者施設等の協力医療機関におけるコロナ治療対応促進

- ◆ 入所系・居住系の高齢者施設等に対して、協力医療機関のコロナ対応状況等についてアンケート調査を実施（R4.3.4～13）
コロナ治療（中和抗体・経口薬・抗ウイルス薬）に対応できる協力医療機関を確保している施設は**約3割**
- ◆ 当該アンケート調査で、協力医療機関がコロナ治療対応していないと回答のあった施設には、コロナ治療に対応できる協力医療機関の確保等について働きかけを実施（R4.4.8文書発出、4.15～27及び5.13～16電話）。
- ◆ 併せて、コロナ治療に対応していない協力医療機関に対して、メールまたは郵送によりコロナ治療の対応について働きかけ等を実施（R4.4.20・28、5.6・18）。



【協力医療機関でのコロナ治療の対応状況（R4.5.16時点）】

R4.5.16 時点	コロナ治療（※1）に対応できる 協力医療機関を確保している施設	協力医療機関では コロナ治療対応不可	未確認等 （確認中を含む）	合計
高齢者施設等 （※2）の数	3月アンケート集計時点では約3割 1,920施設 52.2%	1,076施設 29.2%	684施設 18.6%	3,680施設

（※1）コロナ治療とは、次のいずれかの治療に対応するもの

- ・中和抗体薬の投与：「ソトロビマブ（ゼビュディ）」「カシリビマブ及びイムデビマブ（ロナプリーブ）」
- ・経口薬の投与・処方：「モルヌピラビル（ラゲブリオ）」等
- ・抗ウイルス薬点滴：「レムデシビル（ベクルリー）」等

（※2）高齢者施設等の種別

- 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、介護医療院、介護療養型医療施設、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

●今後の対応

- ◆ 未確認等の施設に対しては、引き続き働きかけを実施。
- ◆ 高齢者施設等における治療体制確立協力金の周知などにより、コロナ治療に対応できる医療機関の裾野を拡大。
- ◆ コロナ治療に対応できる協力医療機関の未確保の高齢者施設等については、OCRTによる支援や高齢者施設等（入所）往診専用ダイヤルを活用しながら、当面の間、往診協力医療機関または重点往診チームにより対応。